第140号

お茶の水女子大学学報

平成3年5月1日
お茶の水女子大学庶務課

(卒業式・学位授与式　平成3年3月22日)

目　　次

◇卒業式・学位記授与式学長告示……… 2
◇入学式学長告示……………………………… 4
◇関係法令……………………………………… 6
◇学内規則……………………………………… 7
学則の一部改正……………………………… 7
学部履修規程の一部改正…………………… 8
外国人留学生委員会規程の一部改正……… 9
大学院規則の一部改正……………………… 9
◇各種委員会委員……………………………… 20
◇学科主任……………………………………… 28
◇新任部局長紹介……………………………… 28
◇学　　事……………………………………… 30
学位授与……………………………………… 30
卒業式及び学位記授与式について………… 31
入学式について……………………………… 31
◇諸　　報……………………………………… 35
附属中学校体育館竣工式について………… 35
永年勤続者表彰について…………………… 35
特別休暇（夏季休暇）の新設について…… 35
海外渡航……………………………………… 36
健康診断……………………………………… 36
レクリェーション…………………………… 36
◇日　　誌……………………………………… 37

卒業式・学位記授与式学長告示

本日ここに、本学名誉教授の先生方をはじめ来賓各位、卒業生の保護者の方々、そして本学教職員諸氏の御臨席のもとに卒業式ならびに学位記授与式を挙行することができますことは、まことにありがたい極みであります。

只今、学部卒業者506名に対し卒業証書を、大学院修士課程修了者122名、同博士課程修了者５名に対し学位記をそれぞれ授与致しました。

卒業生の皆さん、晴れの卒業おめでとう。また今日の日まで皆さんを慈しんでこられた保護者の方々の感慨もさぞかしと、心からおよろこび申しあげます。

私は今、皆さんを送るにあたって、この徽音堂での希望に燃えての入学式以来、ひとりひとりが自分なりに充実した学生生活を送られ、今日またこの徽音堂で、本学で学んで本当によかったと言う感慨をもって、卒業されるものと確信しております。

さて、今日の卒業式は、皆さんにとってよくいわれるように、これからの社会生活や職業生活、さらには研究生活への新しい出発式でもあります。つまりこれまでの本学における研究と教育を通して、皆さんひとりひとりが習得された学業生活の成果を基礎として、それをこれからの新しい生活に活かし、されに発展させて充実した人生をきり拓いていくための出発式なのであります。

その皆さんが出発されていく社会、就職されるにしろ、さらに研究をめざして進学されるにしろ、それはいかにもきびしい変動の社会、いや激動とも呼ぶべき社会であります。高齢化や高度情報化、そして国際社会化といった傾向は、いっそう著しく進んでいくことでしょう。また、最近におけるソビエトでのペレストロイカの進行や東西ドイツの統一、さらには湾岸戦争の問題といっためまぐるしいまでの世界情勢の変化があります。これらは望ましい方向への変化とも言えましょう。しかしその一方では、たとえば地球環境の汚染の問題のように、人類の生存にかかわる地球規模の問題としての取組みを緊急に迫られている課題があります。さらに南の貧困がいっそう深刻になって南北格差がますます大きくなっていくという問題もあります。こうした変動の社会の中でわれわれはひとりひとりの、また、われわれの社会としての答えを探し出し、解決の道を選択していかなければならないのです。この選択について、これまでわれわれの社会が重きをおいてきたのは、総じていって、慈悲や博愛の問題よりは自然の征服の問題、人間としての充実の問題よりは技術革新の問題、平和の問題よりは戦争の問題、人間の心の豊かさよりは経済的豊かさの問題だったのではないでしょうか。その中で、これからのわが国の社会がいかなる道を選択していくのか、そのことはひとえに、今卒業していかれる皆さんひとりひとりがいかなる選択をされるかにかかっていると思うのです。

こうした選択を賢明に成し遂げていくためにも、これまでひとりひとりが大学生活で身につけてきた能力や資質をさらに高め、磨きをかけていくために研鑽をつづけ、学びつづけていっていただきたいのです。そのことは、結局は、よくいわれることばでいえば、流行と不易をふたつながら探究していく自己教育の道を歩むとういうことだ、といってよいでしょう。流行に対応するということは、社会の変化とともに変わるものにチャレンジするということであります。この面でこれから決定的にだいじになるのは、創造的知性を磨きあげるということだと思います。最近わが国の教育についても、これまでの知能の教育から知性の教育へと転換しなければならないと主張されています。この場合、知能とは問題が所与のものとして与えられている、それに対する正解が一つある、それをいかに早く記憶し、暗記して生活に応用していくかといった側面をいいます。これに対して問題を自分で発見する、それに対する答えは幾通りかある、その中からどれを自分にとっての正解として課題解決にあたっていくかといった側面は、まさに知性と呼ぶにふさわしい、創造的知性といってもよいでしょう。先程述べたように、さまざまな問題状況をかかえている社会の中で変化に主体的に対応して生き抜いていかなければならないこれからの社会では、まさしく創造的知性をもってしなければ対応できないことになります。皆さんは、これまで、大学での講義やゼミナール、実験、卒業論文への取組み、さらには課外活動を通して、自分の頭で問題を発見し、体当たりで課題解決に立ち向かっていくという、まさしく知性の基礎を身につけてきたのです。それをさらに高め磨きをかけていって欲しいのです。

つぎには、永遠に変わらないもの、不易の探究ということであります。それは端的にいって教育基本法にいう真・善・美という人類の普遍の理想、理念に向かって、一歩ずつ限りなく近づいていこうとする歩み

だということになりましょう。そしてこの場合、だいじにしたいことが、異質なものとの出会い、ふれ合いとういことであります。

ここで御承知の臼井吉見さんが、いみじくも次のように述べられていることが印象的であります。

「およそ教育の中軸は、自己教育だと思いますが、その自己教育の中軸は自分と異質な人間といつも向き合っていること、反対の意見といつも対置すること、それ以外には自分を反省するてだてはないでしょう。こういうことがなかったら人間は人間ではなくなると思うのですがどうでしょう」

まったくその通りだと思います。

私はこの異質とのふれ合いということを広くとらえたいと思います。これまで出会わなかった自然の美しさにふれ合い、それに感動する。自分とちがった意見や信念に積極的にふれ合って、それを理解し受容する。ちがった地域や国や社会の文化とふれ合って、それぞれの価値を理解し、それを尊重する。こうした生き方が真なるもの、善なるもの、美なるものの探究ということと結びつくのではないでしょうか。

こうしたことが、言葉を変えれば、異質なものとの出合いの中で新しい自分と出合い、新しい自己を発見するということなのではないでしょうか。

このように考えてきますと、皆さんが出発していかれる社会は、皆さんにとって新しい自己発見の場であり、その意味で生涯学習の場であります。

その中で皆さんがもっと勉強したい、誰かに教えを乞いたい、友人や同学の士と共に論じあって考えを深めたい、専門の図書や資料によって調べたい等々の機会や場が必要になるでしょう。その場として皆さんにいつでも開かれているのが、まず皆さんの母校であるこのお茶の水女子大学であります。ここにはともに真理の探究に励んできた先生方との深いつながりがあり、また文字通り同学の士、学友として大学生活を共にしてきた先輩、後輩とのつながりがあるからであります。このつながりをこれからもだいじにしていただきたいものです。

ここでつけ加えさせていただきます。

今日の卒業式には、留学生として博士課程修了２名、修士課程修了13名、学部卒業４名の方がおられます。いろいろときびしい困難なこともあったでしょう。よく頑張ってくれました。卒業をお祝いすると同時に、今申したような意味で、それぞれのお国の生活や文化の発展に寄与するような生き方をしてくださるよう念願いたします。

最後にあらためて、今ここから新しい自己発見の旅へと巣立って行かれる皆さんが、自分を高めよくするとともに、人をよくし、社会をよくする堂々たる人生の道を歩んでいかれることを念願いたします。

重ねて、卒業される皆さんと保護者の方への祝意を表して、私の告示といたします。

平成３年３月22日

お茶の水女子大学長　河　野　重　男

(平成３年度入学式　平成３年４月９日)

入学式学長告示

只今入学許可をした732名の新入生の皆さん、入学おめでとう。
入学志願者がピークに達する時期であっただけに、皆さんの努力と苦労もさぞかしだったと思います。それだけに入学おめでとうという言葉も私にとっては、よくぞ頑張り抜いてくれたという思いでいっぱいです。また、本日ここにお見えいただいている御両親、保護者の方々にとっても、その意味で、今日の感慨はさぞかしと、心よりおよろこび申しあげます。

さて、新入生の皆さん、皆さんにとってこの入学式は、いまあらためて、自分は何のために大学に入ってきたのかを問い直す場であります。言うまでもないと思いますが皆さんは、どこかの大学にはいること、そのことを目的としてきたわけではないでしょう。大学に入って何かをするために、何かを学ぶためにこのお茶の水女子大学へ入ってきたのです。その皆さんに、私なりの期待と願いを申しあげて、一緒に考えてみたいと思います。

第一には、これからの大学生活の中で、皆さんひとりひとりが自分の生涯をかけて打ち込めるものが何であるのか、自分なりの個性を生かして、その道に打ちこんでいけば自分も自己を実現することができるし、そのことを通して人や社会の役にも立つ、その道がなんであるのかを見つけ出し、探し求めていくことだと思います。もちろん、皆さんは、本学を志望し、大学のそれぞれの学科を志望されたとき、このことも十分に考えてこられたわけでしょうが、今日からの学生生活の中で、もっと広い視野からそれをもういちど見直していっていただきたいのです。

皆さんはだれでも、これまでの高校までの教育の中でも、まだ自分で気付いていない個性的な何ものかをもっています。それを自分で見つけだし、その才能を生かしていってほしいのです。そのためには折りにふれて、鏡の中の自分に向かって、「おーい、ほんとうの自分よ、自分に納得のいく生き方をしているか、本当にやりたいこと、打ち込めることはなにか」と、自分自身に問いかけ、話しかけて考えて見るといいと思います。

このことがよく言われる新しい自分との出合いということであり、新しい自己発見ということなのではないでしょうか。たとえば、それは新しい書物との出合いであります。アメリカの高名な社会評論家カズンズが、書物を通して人は一回きりの人生の中で、二・三百回の人生を生きるといっています。

新しい学科の先生との出合いも、また新しい友人や先輩との出合いもまたそのよすがとなることでしょう。

いずれにしても、こうした生き方こそが大学生活に対する意欲と、少々のきびしさも乗り越えて、自己実現に努力していこうとする気力の源泉になると考えるのであります。

武者小路さんがよくいっておられる「この道より他に我を生かす道なし、我が道を行く」という、その道をひとりひとり探究していってほしいのです。

第二に、そうしたわが道を探究していくうえでだいじになることが、知識の学習から知性の学習への転換を図るということであります。この場合、知識の学習とは、問題がすでに与えられたものとして出されている、それに対する答えが正解として一つある、その答えをいかに速く記憶し暗記して、応用に活用していくかという側面のことを言います。断片的知識の習得というようなことがそれにあたります。これに対して、問題を自分で見つけだし作り出していく、それに対する答えは幾通りかある、その中からどれを自分なりの答えとしていくかと言う側面をいうときに、それを知性の学習といってよいでしょう。明治以降、これまでのわが国では前者の知識の学習で充分に対応できました。しかし、よくいわれる科学技術が刻々に高度化し、情報化や国際化が進んでいく社会では、創造的知性をもった人でなければ、社会生活を切り拓いていけないのです。また、そうでなくても、もともと大学というところ自体が、まさしく創造的知性を身につけ発展さ

せていくところなのです。

大学は、よく学問の府だといわれます。この場合学問ということばを、問うことを学ぶというようにとらえることができます。このことに関して、有名なイギリスの哲学者ジョン・スチュアート・ミルが述べていることを引き合いに出させていただきましょう。彼は知性を磨き上げる最良の方法は、「あらゆるものごとに疑問をいだいてみることである」として、こう述べております。「いかなる困難からも顔をそむけることなく、たえず反対の理論を考えて厳粛に調べてみないうちは、自分からもまた他人からもこりかたまった主義を受け入れないようにすること、誤謬や矛盾や混乱した思考をみすごして先に進んではならない。とりわけ、大切なのは一つのことばといえどもその意味をはっきりと理解しない限りぜったいに使わないこと。一つの前置詞といえども、それを使う意味を認めない限りぜったいに用いないこと。こうしたことをわれわれは心に刻みつけておかなければならない」と。自分の頭で考えるということのきびしさをいい得て妙であります。

第三に、これからの大学生活の中で皆さんに心がけてほしいことは、異質なものや考え方と積極的に出合い、ふれ合うということであります。現代社会を動かしている大きな要因のひとつは、さまざまな文化との接触、異なる価値観との出合いといった現象があります。多くのモノやヒトや情報が国や民族の壁を越えて行き来し、新しい人間関係が生まれ、新しい文化が発生していきます。同時に多くの摩擦も起きてきます。国際社会化が進めば進ほど、今後この傾向はいっそう進んでいくでしょう。

こうした多くの異質の文化や価値観が共存し、互いに尊重し、刺激しあう社会を多文化共生社会と呼ぶことができましょう。これからわれわれは、たしかに、多文化社会の中で共存して生きて行かなければならなくなるのです。このことは、大学生活の中で異質とのふれ合いをだいじにすることから培われていくと思います。これまで出合わなかった自然の美しさにふれ合い、それに感動する。自分とちがった意見や信念に積極的にふれ合って、それを理解し受容する。違った地域や社会の文化とふれ合って、それぞれの価値を理解しそれを尊重する。

こうしたことが、創造的知性を磨きあげるということにもつながりますし、そのことがまた国際社会化、とくにいまや地球環境の問題として人類の生存にもかかわるような環境問題への取り組みが緊急の課題になっている私どもにとって、とりわけだいじなことなのではないでしょうか。

以上、私はみなさんに、これからの大学生活の中、生涯をかけて打ち込めるわが道を探究してほしい、そのためにも創造的知性を磨き上げながら、かつ、多文化社会に生きる力を身につけてほしいという三つの願いを申しあげました。

本学は、小規模大学としての良さをもっております。先生方と学生との学問探究を通しての深いつながりが、ここにはあります。また、ゼミナール・実験・課外活動を通しての同学の友との対話ももてます。けれども、こうした大学を新しい自己発見と自己探究の場として活かしていくのは、あくまでも皆さんひとりひとりであります。「叩けよ、されば開かれん」という言葉がありますように、先生方の研究室や先輩の門は、自分で叩かなければ開かれません。その意味で今日からの生活の中で、先生方の門を叩き、図書館の書棚を叩き、情報処理センターのキーを叩き、同学の友と胸襟を開き合って対話するという、充実した学園生活を自ら積極的に作り出していってください。

ところで、正面の『徽音堂』という額は、本学の伝統的なものでありますが、「徽音」ということばは、辞書などによれば「清き音、良きことば、良きほまれ」を意味するそうです。良き音は美を、良きことばは真理と知性を、良きほまれは良き生き方をあらわしていると考えます。つまり、先程から考えてまいりました創造的知性と豊かな感性とに支えられた自分なりの生き方の探究にいそしむところが、このお茶の水女子大学なのだということの象徴なのであります。

この意味で今日入学式を行い、四年後にまたここで卒業式に臨むことになる皆さんが本学に入学したことの自覚と誇りとをもって、皆さん自身の手で大学生活を充実したものにしていってくださることを切に念願するものであります。

なお、今回留学生として学部6名、修士課程17名、博士課程6名の方がおられます。ようこそ頑張って、本学へ入学してくれました。なんのために本学へ留学したのかという初心をいつも問い直して、日本の学生との対話の中でそれぞれの研究を深め、成果をおさめて、それぞれの国の生活や文化の発展に貢献されるよう期待します。

最後に新入生の皆さん、そして保護者の皆さん、重ねて入学おめでとう。

平成3年4月9日

お茶の水女子大学長　河　野　重　男

関係法令

【法　律】

○国立学校設置法及び学校教育法の一部を改正する法律（法律第23号、4月2日官報）

○学校教育法等の一部を改正する法律（法律第25号、4月2日官報）

【政　令】

○旅券法施行令の一部を改正する政令（政令第22号、3月8日官報）

○児童扶養手当法施行令の一部を改正する政令（政令第62号、3月29日官報）

○平成2年度における国家公務員等共済組合法の年金の額の改定に関する政令の一部を改正する政令（政令第66号、3月29日官報）

○行政機関職員定員令及び沖縄の復帰に伴う行政機関の職員の定員に関する法律の適用の特別措置に関する政令の一部を改正する政令（政令第108号、4月12日官報）

○国立学校設置法施行令の一部を改正する政令（政令第116号、4月12日官報）

【省　令】

○学校教育法施行規則の一部を改正する省令（文部省令第1号、3月15日官報）

○教育資格認定試験規則の一部を改正する省令（文部省令第5号、3月16日官報）

○旅券法施行規則の一部を改正する省令（外務省令第5号、3月28日官報）

○国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令（文部省令第7号、3月29日官報）

○国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（文部省令第8号、3月29日官報）

○文部省定員規則の一部を改正する省令（文部省令第13号、4月12日官報）

○文部省設置法施行規則の一部を改正する省令（文部省令第14号、4月12日官報）

○国立大学の学科及び課程並びに講座及び学科目に関する省令の一部を改正する省令（文部省令第21号、4月12日官報）

【規　則】

○人事院規則8－18（採用試験）の一部を改正する人事院規則（人事院規則8－18－6、3月11日官報）

○人事院規則10－4（職員の保健及び安全保持）の一部を改正する人事院規則（人事院規則10－4－2、3月15日官報）

○人事院規則9－1（非常勤職員の給与）の一部を改正する人事院規則（人事院規則9－1－7、3月15日官報）

○人事院規則9－40（期末手当及び勤勉手当）の一部を改正する人事院規則（人事院規則9－40－9、4月12日官報）

○人事院規則16－3（災害を受けた職員の福祉施設）の一部を改正する人事院規則（人事院規則16－3－14、4月12日官報）

○人事院規則16－4（補償及び福祉施設の実施）の一部を改正する人事院規則（人事院規則16－4－8、4月12日官報）

【告　示】

○教員の免許状授与の所要資格を得させるための大学の正規の課程等として認定した件（文部省告示第13号、2月27日官報）

○平成4年度科学研究費補助金の研究課題を公募する件（文部省告示第18号、3月20日官報）

○教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程として認定した件（文部省告示第30号、4月1日官報）

学内規則

○お茶の水女子大学学則第１号

お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則を次のように定める。

平成３年３月20日

お茶の水女子大学長　河　野　重　男

お茶の水女子大学学則の一部を改正する学則

お茶の水女子大学学則（昭和24年５月31日制定）の一部を次のように改正する。

第34条第１項中「わけて」を「分けて」に改め、同項に次のただし書きを加える。

ただし、前期に係る授業料を納めるときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて納めることができる。

第34条第２項中「前期に係る授業料」を「授業料」に、「時は」を「ときは」に改める。

別表を次のように改める。

別表（第13条関係）

学部	学科		免許状の種類	
文教育学部	哲学科		中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	地理歴史 公民
	史学科		中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	地理歴史 公民
	地理学科		中学校教諭一種免許状	社会 理科
			高等学校教諭一種免許状	地理歴史 公民 理科
	国文学科		中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語
	外国文学科	中国文学・中国語学		中国語
		英文学・英語学		英語
		仏文学・仏語学		フランス語
	教育学科		小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状	
			中学校教諭一種免許状	社会
			高等学校教諭一種免許状	地理歴史 公民
	舞踊教育学科	舞踊教育学	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	保健体育
		音楽教育学		音楽

理学部	数学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学
	物理学科		理科
	化学科		
	生物学科		
	情報学科		数学
家政学部	児童学科	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状	
	食物学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	家庭
	被服学科		
	家庭経営学科		

附　則

この学則は、平成3年4月1日から施行し、改正後の別表に掲げる地理歴史又は公民については、平成2年4月1日から適用する。

○お茶の水女子大学規則第1号

お茶の水女子大学学部履修規程の一部を改正する規則を次のように定める。

平成3年3月20日

お茶の水女子大学長　河　野　重　男

お茶の水女子大学学部履修規程の一部を改正する規則

お茶の水女子大学学部履修規程（昭和24年5月31日制定）の一部を次のように改正する。

別表2を次のように改める。

（「次のよう」省略」）

附　則

この規程は、平成3年3月20日から施行し、平成2年4月1日から適用する。

○お茶の水女子大学規則第2号

お茶の水女子大学学部履修規程の一部を改正する規則を次のように定める。

平成3年3月20日

お茶の水女子大学長　河　野　重　男

お茶の水女子大学学部履修規程の一部を改正する規則

お茶の水女子大学学部履修規程（昭和24年5月31日制定）の一部を次のように改正する。

別表1の文教育学部教育学科教育学の項中「

36	8	4	46	10	0	0	20	76	124

」を「

36	8	4	48	10	0	0	18	76	124

」に、家政学部児童学科の項中「

36	8	4	30	22	0	6	18	76	124

」を、「

36	8	4	28	22	0	6	20	76	124

」に、家庭経営学科の項中「

36	8	4	36	18	0	6	16	76	124

」を「

36	8	4	34	20	0	6	16	76	124

」に改める。

別表2を次のように改める。

（「次のよう」省略」）

附　則

1　この規程は、平成3年4月1日から施行する。

2　この規程による改正後の別表1及び別表2の規定は、平成3年度に入学した者から適用し、平成2年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

○お茶の水女子大学規則第3号

お茶の水女子大学外国人留学生委員会規程の一部を改正する規則を次のように定める。

平成3年3月20日

お茶の水女子大学長　河野　重男

お茶の水女子大学外国人留学生委員会規程の一部を改正する規則

お茶の水女子大学外国人留学生委員会規程（昭和62年2月27日制定）の一部を次のように改正する。

第6条第1項を次のように改める。

第6条　委員会に委員長を置く。

第6条第3項を第4項とし、第2項を第3項とし、同項の前に次の一項を加える。

2　委員長は、委員（第4条第1項第4号の委員を除く。）の互選によって定める。

附　則

1　この規程は、平成3年4月1日から施行する。

2　この規程の施行の際現に委員長である者は、改正後の第6条第2項の規定により、委員長として互選されたものとみなす。

○お茶の水女子大学規則第4号

お茶の水女子大学大学院規則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成3年3月20日

お茶の水女子大学長　河　野　重　男

お茶の水女子大学大学院規則の一部を改正する規則

お茶の水女子大学大学院規則（昭和38年4月24日制定）の一部を次のように改正する。

第1条中「「大学院」」を「「本学大学院」」に改める。

第2条を次のように改める。

（研究科）

第2条　本学大学院に次の研究科を置く。

人文科学研究科

理学研究科

家政学研究科

人間文化研究科

2　人文科学研究科、理学研究科及び家政学研究科は、修士課程とする。

3　人間文化研究科は、後期3年の課程のみの博士課程（以下単に「博士課程」という。）とする。

第3条第2項中「修業年限」を「標準修業年限」に改める。

第5条から第8条までを次のように改める。

（専攻）

第5条　各研究科に次の専攻を置く。

人文科学研究科

哲学専攻

史学専攻

地理学専攻

日本文学専攻

中国文学専攻
英文学専攻
教育学専攻
舞踊教育学専攻
日本言語文化専攻
理学研究科
数学専攻
物理学専攻
化学専攻
生物学専攻
家政学研究科
児童学専攻
食物学専攻
被服学専攻
家庭経営学専攻
人間文化研究科
比較文化学専攻
人間発達学専攻
人間環境学専攻

(学生定員)

第6条　本学大学院の学生定員は、別表第1のとおりとする。

(研究科委員会)

第7条　研究科に研究科委員会(人間文化研究科にあっては、研究科会議と称する。以下同じ。)を置く。

2　研究科委員会の組織及び運営の細目については、別に定める。

(研究科長)

第7条の2　研究科に研究科長を置く。

2　研究科長(人間文化研究科長を除く。)は、当該研究科の基礎となる学部の学部長をもって充てる。

3　人間文化研究科長は、当該研究科において研究指導(学位論文の作成等に対する指導をいう。以下同じ。)を担当する教授のうちから、別に定めるところにより選任する。

4　研究科長は、研究科の運営に係る事項を掌理する。

(大学院担当教官)

第8条　本学大学院において授業を担当する教官は、研究科に置かれた講座に所属する教授又は助教授のほか、本学の教授、助教授、講師又は客員教授のうちからこれに充てる。

2　本学大学院において研究指導を担当する教官は、研究科に置かれた講座に所属する教授又は助教授のほか、本学の教授、助教授、講師(常勤の者に限る。)又は客員教授のうちからこれに充てる。

「第2章　修士課程」を「第2章　教育方法等」に改め、「第1節　教育方法等」を削る。

第9条中「修士課程」を「本学大学院」に、「学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)」を「研究指導」に改める。

第9条の2(見出しを含む。)中「授業科目等」を「授業科目及び単位数」に、「専攻別の授業科目及び単位数等」を「専攻ごとの授業科目及び単位数」に、「別表1」を「別表第2から別表第5まで」に改め、同条を第9条の3とし、同条の前に次の一条を加える。

第9条の2　修士課程の研究科においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行うことができる。

第10条を次のように改める。

第10条　各研究科における授業科目及び研究指導の内容並びにこれらの履修方法は、各研究科において定める。

第11条の次に次の一条を加える。

(他の大学院等における研究指導)

第11条の2　人間文化研究科において教育研究上有益と認めるときは、他の大学の大学院又は研究所等とあらかじめ協議の上、学生が当該他大学の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。

第12条中「修士課程」を「本学大学院」に、「次の表に掲げる」を「別表第6の」に改める。

「第4章　雑則」を「第8章　雑則」に改め、第3章を次のように改める。

第7章　削除

第37条から第50条まで　削除

「第2節　課程の修了」を削り、第13条の前に次の章名を加える。

第3章　課程の修了及び学位

第13条中「大学院」を「当該課程」に、「30単位以上」を「所要の授業科目について30単位以上」に改め、同条に次の一項を加える。

2　博士課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、所要の授業科目について10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、その研究業績に基づいて研究科が

特別に認めた者に限り、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

第15条中「口頭」を「口述」に、「第2年次」を「最終年次」に改める。

第16条中「修士課程修了」を「課程修了」に改める。

「第3節　学位の授与」を削る。

第17条中「家政学研究科　家政学修士」を「家政学研究科　家政学修士
人間文化研究科　学術博士」に改める。

「第4節　入学・留学・休学・退学・転学」を削り、第18条の前に次の章名を加える。

第4章　入学、留学、休学、退学及び転学

第19条第2号を次のように改める。

二　外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

第19条に次の三号を加える。

三　文部大臣の指定した者

四　大学に3年以上在学し、本学大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

五　その他本学大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第19条に次の一項を加える。

2　博士課程に入学できる者は、次の各号の一に該当する女子とする。

一　修士の学位を有する者

二　外国において修士の学位に相当する学位を授与された者

三　文部大臣の指定した者

四　その他本学大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

第20条中「出身大学」を「出身の大学又は大学院」に改める。

第21条中「入学者」を「合格者」に改める。

第22条を次のように改める。

第22条　前条の規定による合格者は、所定の期日までに契約書その他所定の書類を提出するとともに、入学料を納付しなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者（第31条の規定により入学料の免除申請をした者を含む。）に入学を許可する。

第24条中「保証人連署の上願い出て」を「学長の許可を得て」に改める。

第25条中「2年」を「修士課程では通算して2年を、博士課程では通算して3年」に改める。

第26条中「保証人連署の上退学願を提出しなければならない」を「学長に願い出て、その許可を得なければならない」に改める。

第28条中「保証人連署の上当該専攻担当の教官」を「当該研究科長」に改める。

第29条中「4年」を「修士課程では4年、博士課程では6年」に改める。

「第5節　検定料、入学料及び寄宿料」を削り、第30条の前に次の章名を加える。

第5章　検定料、入学料及び寄宿料

第6節及び第7節を次のように改める。

第32条及び第33条　削除

「第8節　特別聴講学生・聴講生・委託生・外国人学生・外国人研究生」を削り、第34条の前に次の章名を加える。

第6章　研究生、聴講生及び特別聴講学生

第34条を次のように改める。

（研究生）

第34条　学長は、本学大学院において、特別の事項について研究しようとする者があるときは、研究科委員会の議を経て、研究生として入学を許可することができる。

第34条の次に次の一条を加える。

（聴講生）

第34条の2　学長は、本学大学院の授業科目のうち数科目を選び聴講しようとする者があるときは、研究科委員会の議を経て、聴講生として入学を許可することができる。

第35条第2項中「本学の大学院」を「本学大学院」に改める。

別表を次のように改める。

別表第1（第6条関係）

研究科	専攻	入学定員	総定員
人文科学研究科	哲学専攻	8人	16人
	史学専攻	7人	14人
	地理学専攻	6人	12人
	日本文学専攻	6人	12人
	中国文学専攻	3人	6人
	英文学専攻	7人	14人
	教育学専攻	11人	22人
	舞踊教育学専攻	10人	20人
	日本言語文化専攻	12人	24人
	計	70人	140人
理学研究科	数学専攻	10人	20人
	物理学専攻	10人	20人
	化学専攻	10人	20人
	生物学専攻	10人	20人
	計	40人	80人
家政学研究科	児童学専攻	8人	16人
	食物学専攻	10人	20人
	被服学専攻	8人	16人
	家庭経営学専攻	6人	12人
	計	32人	64人
人間文化研究科	比較文化学専攻	16人	48人
	人間発達学専攻	10人	30人
	人間環境学専攻	9人	27人
	計	35人	105人

別表第2（第9条の3関係）

人文科学研究科

哲学専攻

授業科目	単位数
哲学特論Ⅰ	4
哲学特論Ⅱ	4
哲学演習Ⅰ	4
哲学演習Ⅱ	4
倫理学特論Ⅰ	4
倫理学特論Ⅱ	4
倫理学演習Ⅰ	4
倫理学演習Ⅱ	4
美学特論Ⅰ	4
美学特論Ⅱ	4
美学演習Ⅰ	4
美学演習Ⅱ	4
社会学特論Ⅰ	4
社会学特論Ⅱ	4
社会学演習Ⅰ	4
社会学演習Ⅱ	4
特別研究	8

史学専攻

授業科目	単位数
日本史学特論Ⅰ	4
日本史学特論Ⅱ	4
日本史学特論Ⅲ	4
日本史学演習Ⅰ	4
日本史学演習Ⅱ	4
東洋史学特論Ⅰ	4
東洋史学特論Ⅱ	4
東洋史学特論Ⅲ	4
東洋史学演習Ⅰ	4
東洋史学演習Ⅱ	4
西洋史学特論Ⅰ	4
西洋史学特論Ⅱ	4
西洋史学特論Ⅲ	4
西洋史学演習Ⅰ	4
西洋史学演習Ⅱ	4
特別研究	8

地理学専攻

授業科目	単位数
人文地理学特論Ⅰ	2
人文地理学特論Ⅱ	2
人文地理学特論Ⅲ	2
人文地理学特論Ⅳ	2
人文地理学特論Ⅴ	2
人文地理学演習Ⅰ	2
人文地理学演習Ⅱ	2
自然地理学特論Ⅰ	2
自然地理学特論Ⅱ	2
自然地理学特論Ⅲ	2
自然地理学特論Ⅳ	2
自然地理学特論Ⅴ	2
自然地理学演習Ⅰ	2
自然地理学演習Ⅱ	2
地誌学特論Ⅰ	2
地誌学特論Ⅱ	2
地誌学特論Ⅲ	2
地誌学特論Ⅳ	2
地誌学特論Ⅴ	2
地誌学演習Ⅰ	2
地誌学演習Ⅱ	2
野外調査Ⅰ	2
野外調査Ⅱ	2
野外調査Ⅲ	2
特別研究	8

日本文学専攻

授業科目	単位数
上古文学特論	4
中古文学特論	4
上古・中古文学演習	4

中世文学特論	4
近世文学特論	4
中世・近世文学演習	4
近代文学特論	4
近代文学演習	4
日本文学思潮特論	4
国語学特論Ⅰ	4
国語学特論Ⅱ	4
国語学演習	4
特別研究	8

中国文学専攻

授業科目	単位数
中国文学特論Ⅰ	4
中国文学特論Ⅱ	4
中国文学特論Ⅲ	4
中国文学特論Ⅳ	4
中国文学演習Ⅰ	4
中国文学演習Ⅱ	4
中国文学演習Ⅲ	4
中国文学演習Ⅳ	4
中国語学特論Ⅰ	4
中国語学特論Ⅱ	4
中国語学特論Ⅲ	4
中国語学特論Ⅳ	4
中国語学演習Ⅰ	4
中国語学演習Ⅱ	4
中国語学演習Ⅲ	4
中国語学演習Ⅳ	4
中国哲学特論Ⅰ	4
中国哲学特論Ⅱ	4
特別研究	8
中国語学特論	4

英文学専攻

授業科目	単位数
英文学特論Ⅰ	4
英文学特論Ⅱ	4
英文学特論Ⅲ	4
英文学演習Ⅰ	4
英文学演習Ⅱ	4
米文学特論Ⅰ	4
米文学特論Ⅱ	4
米文学演習Ⅰ	4
米文学演習Ⅱ	4
英語学特論Ⅰ	4
英語学特論Ⅱ	4
英語学演習Ⅰ	4
英語学演習Ⅱ	4
特別研究	8

教育学専攻

授業科目	単位数
教育学特論	4
教育学演習	4
教育史特論	4
教育史演習	4
教育方法学特論	4
教育方法学演習	4
教育経営学特論	4
教育経営学演習	4
教育社会学特論	4
教育社会学演習	4
教育行政特論	4
教育行政演習	4
社会教育学特論	4
社会教育学演習	4
博物館学特論	4
博物館学演習	4
文化人類学特論	4
文化人類学演習	4
発達心理学特論	4
発達心理学演習	4
教育心理学特論	4
教育心理学演習	4
認知心理学特論	4
認知心理学演習	4
特別研究	8

舞踊教育学専攻

授業科目	単位数
舞踊教育学特論	4
舞踊教育学演習	2
舞踊美学特論	2
舞踊方法論特論	2
舞踊方法論実験実習	2
遊戯学特論	4
遊戯学実験実習	2
遊戯方法論演習	2
民族舞踊特論	4
動作学特論	4
動作学実験実習	2
トレーニング論実験・実習	4
表現心理学演習	2
音楽学特論Ⅰ	4
音楽学特論Ⅱ	4
音楽理論演習	4
音楽学演習Ⅰ	4
音楽学演習Ⅱ	4
演奏学特論Ⅰ	4
演奏学特論Ⅱ	4
演奏学演習Ⅰ	4
演奏学演習Ⅱ	4
舞台芸術実験実習	4
特別研究	8
教育心理学特論	4

発達心理学特論	4
認知心理学特論	4
教育社会学特論	4
教育方法学特論	4

日本言語文化専攻

授業科目	単位数
日本語学特論	4
日本語学演習	4
日本言語文化学特論Ⅰ	4
日本言語文化学特論Ⅱ	4
日本言語文化学演習Ⅰ	4
日本言語文化学演習Ⅱ	4
比較文化学特論	4
外国文化論	4
日本語教育学特論	4
日本語教育方法論	4
日本語指導法演習Ⅰ	4
日本語指導法演習Ⅱ	4
日本語音声表現特論	4
日本語音声表現演習	4
日本語文章表現演習	4
言語哲学特論	4
言語分析学演習	4
日本文化史学特論	4
対照言語学特論	4
対照言語学演習	4
言語心理学特論	4
特別研究	6

関連科目

授業科目	単位数
独文学特論	4
独文学演習	4
仏文学特論Ⅰ	4
仏文学特論Ⅱ	4
仏文学演習	4
フランス文化論	4

別表第３（第９条の３関係）

理学研究科

数学専攻

授業科目	単位数
解析学特論Ⅰ	2
解析学特論Ⅱ	2
解析学特論Ⅲ	2
解析学特論Ⅳ	2
解析学特論Ⅴ	2
解析学特論Ⅵ	2
解析学特論Ⅶ	2
解析学特論Ⅷ	2
解析学特論Ⅸ	2
解析学特論Ⅹ	2
解析学特論Ⅺ	2
解析学特論Ⅻ	2
解析学特論ⅩⅢ	2
解析学特論ⅩⅣ	2
解析学特論ⅩⅤ	2
解析学特論ⅩⅥ	2
数学特論Ⅰ	2
数学特論Ⅱ	2
数学特論Ⅲ	2
数学特論Ⅳ	2
数学特論Ⅴ	2
代数学特論Ⅰ	2
代数学特論Ⅱ	2
代数学特論Ⅲ	2
代数学特論Ⅳ	2
代数学特論Ⅴ	2
代数学特論Ⅵ	2
代数学特論Ⅶ	2
代数学特論Ⅷ	2
幾何学特論Ⅰ	2
幾何学特論Ⅱ	2
幾何学特論Ⅲ	2
幾何学特論Ⅳ	2
幾何学特論Ⅴ	2
幾何学特論Ⅵ	2
幾何学特論Ⅶ	2
幾何学特論Ⅷ	2
応用数学特論Ⅰ	2
応用数学特論Ⅱ	2
応用数学特論Ⅲ	2
応用数学特論Ⅳ	2
応用数学特論Ⅴ	2
応用数学特論Ⅵ	2
応用数学特論Ⅶ	2
応用数学特論Ⅷ	2
数学講究Ⅰ	16
数学講究Ⅱ	16
数学講究Ⅲ	16
数学講究Ⅳ	16
数学講究Ⅴ	16

物理学専攻

授業科目	単位数
流体力学特論Ⅰ	2
流体力学特論Ⅱ	2
相対論特論	2
数理物理学特論Ⅰ	2
数理物理学特論Ⅱ	2
計測特論Ⅰ	2
計測特論Ⅱ	2
計測特論Ⅲ	2
分子特論Ⅰ	2
分子特論Ⅱ	2
分子特論Ⅲ	2

分子特論Ⅳ	2
統計力学特論Ⅰ	2
統計力学特論Ⅱ	2
統計力学特論Ⅲ	2
統計力学特論Ⅳ	2
素粒子特論Ⅰ	2
素粒子特論Ⅱ	2
素粒子特論Ⅲ	2
素粒子特論Ⅳ	2
原子核特論Ⅰ	2
原子核特論Ⅱ	2
原子核特論Ⅲ	2
原子核特論Ⅳ	2
固体特論Ⅰ	2
固体特論Ⅱ	2
固体特論Ⅲ	2
固体特論Ⅳ	2
固体特論Ⅴ	2
固体特論Ⅵ	2
磁性体特論Ⅰ	2
磁性体特論Ⅱ	2
磁性体特論Ⅲ	2
磁性体特論Ⅳ	2
低温物性特論Ⅰ	2
低温物性特論Ⅱ	2
物理学特論Ⅰ	2
物理学特論Ⅱ	2
物理学特論Ⅲ	2
物理学特論Ⅳ	2
物理学特論Ⅴ	2
物理学特論Ⅵ	2
物理学特論Ⅶ	2
物理学特論Ⅷ	2
物理学特論Ⅸ	2
物理学特論Ⅹ	2
物理学特論Ⅺ	2
物理学特論Ⅻ	2
物理学特論XIII	2
物理学特論XIV	2
物理学特論XV	2
特別研究	14

化学専攻

授業科目	単位数
物性物理化学	2
反応物理化学	2
構造物理化学	2
物理化学特論Ⅰ	2
物理化学特論Ⅱ	2
物理化学演習Ⅰ	2
物理化学演習Ⅱ	2
無機化学特論Ⅰ	2
無機化学特論Ⅱ	2
無機化学特論Ⅲ	2
無機化学特論Ⅳ	2
無機化学演習Ⅰ	2
無機化学演習Ⅱ	2
無機構造化学	2
天然物有機化学	2
有機合成化学	2
有機化学特論Ⅰ	2
有機化学特論Ⅱ	2
有機化学特論Ⅲ	2
有機化学演習Ⅰ	2
有機化学演習Ⅱ	2
生物化学特論Ⅰ	2
生物化学特論Ⅱ	2
生物化学特論Ⅲ	2
生物化学特論Ⅳ	2
生物化学演習Ⅰ	2
生物化学演習Ⅱ	2
物質代謝特論	2
分析化学特論Ⅰ	2
分析化学特論Ⅱ	2
分析化学特論Ⅲ	2
分析化学特論Ⅳ	2
分析化学演習Ⅰ	2
分析化学演習Ⅱ	2
機器分析特論	2
構造化学特論Ⅰ	2
構造化学特論Ⅱ	2
構造化学特論Ⅲ	2
構造化学特論Ⅳ	2
構造化学演習Ⅰ	2
構造化学演習Ⅱ	2
化学特論Ⅰ	2
化学特論Ⅱ	2
化学特論Ⅲ	2
化学特論Ⅳ	2
化学特論Ⅴ	2
特別研究	14

生物学専攻

授業科目	単位数
動物形態学特論	2
動物発生学特論Ⅰ	2
動物発生学特論Ⅱ	2
動物生理学特論	2
細胞生物学特論Ⅰ	2
細胞生物学特論Ⅱ	2
細胞生物学特論Ⅲ	2
植物形態学特論Ⅰ	2
植物形態学特論Ⅱ	2
植物生理学特論Ⅰ	2
植物生理学特論Ⅱ	2
植物生理学特論Ⅲ	2
遺伝学特論Ⅰ	2
遺伝学特論Ⅱ	2
遺伝学特論Ⅲ	2
発生生物学特論	2
生化学特論	2
環境植物学特論	2
生物学特論Ⅰ	2

生物学特論Ⅱ	2
生物学特論Ⅲ	2
生物学特論Ⅳ	2
生物学特論Ⅴ	2
生物学特論Ⅵ	2
生物学特論Ⅶ	2
生物学特論Ⅷ	2
生物学特論Ⅸ	2
生物学特論Ⅹ	2
生物学特論Ⅺ	2
生物学特論Ⅻ	2
生物学特論XIII	2
生物学特論XIV	2
生物学特論XV	2
特別研究	14

別表第4（第9条の3関係）

家政学研究科

児童学専攻

授業科目	単位数
児童発達学特論	4
児童心理学特論	4
人間環境学特論	2
保育学特論	4
児童福祉特論	4
児童文化特論	4
臨床心理学特論	4
児童臨床学特論	4
比較家族思想史特論	4
言語治療特論	4
青少年問題特論	4
教育法制特論	4
発達神経学特論	4
児童保健学特論	2
人間関係学特論	4
児童臨床特別実習	2
児童社会特論	2
集団理論特論	2
発達臨床特論	4
児童学特別講義	4
児童学特別研究	10
児童学研究特論	4

食物学専攻

授業科目	単位数
栄養化学特論Ⅰ	4
栄養化学特論Ⅱ	4
栄養生理学特論	2
特殊栄養学特論	2
食品化学特論Ⅰ	4
食品化学特論Ⅱ	4
食品微生物学特論	4
食品貯蔵学特論Ⅰ	4
食品貯蔵学特論Ⅱ	4
食品物性特論	4
調理学特論Ⅰ	4
調理学特論Ⅱ	4
生物化学特論第Ⅰ	4
生物化学特論第Ⅱ	4
環境生化学特論	4
食物学特別講義	4
食物学特別研究	10

被服学専攻

授業科目	単位数
被服材料学特論	4
被服物理学特論	2
被服材料化学特論	4
被服衛生学特論	2
繊維構造論	2
染色化学特論	4
被服整理学特論	4
繊維界面化学	4
応用界面化学	4
被服構成学特論Ⅰ	4
被服構成学特論Ⅱ	4
被服構成学特論Ⅲ	4
被服構成学特論Ⅳ	4
被服構成学特論Ⅴ	2
被服構成学特論Ⅵ	2
服飾美学特論Ⅰ	4
服飾美学特論Ⅱ	4
服飾美学特論Ⅲ	4
服飾美学特論Ⅳ	4
服飾史特論Ⅰ	2
服飾史特論Ⅱ	2
芸術学特論	4
流行情報特論	4
情報設計特論	4
被服学特別講義	4
被服学特別研究	10
被服学輪講	4
生活材料学特論	2
高分子科学特論	4
生活材料化学特論	4
被服環境学特論	4
洗浄科学特論	4

家庭経営学専攻

授業内容	単位数
家政学原論持論 I	4
家政学原論持論 II	4
生活史持論	2
生活行動論持論	4
家庭経済学特論 I	4
家庭経済学特論 II	2
経営経済学特論	4
消費者行動論	4
家族社会学特論	4
家族関係学特論	4
家庭法律学特論	4
比較家族研究特論	4
家庭管理学特論 I	2
家庭管理学特論 II	2
居住学特論	2
家庭経営学特別講義	4
家庭科教育特論 I	2
家庭科教育特論 II	2
家庭経営学特別研究	10

別表第5（第9条の3関係）

人間文化研究科

比較文化学専攻

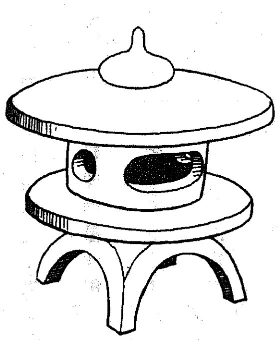
講座名	授業科目	単位数
文化構造論	構造分析	4
	東洋文化論	4
	比較文化論	4
	西洋文化論	4
	文化類型論	4
	文化変動論	4
日本文化論	日本文学論	4
	古代文化論	4
	中世文化論	4
	近代文学論	4
	日本文化思想	4
	日本文化起源論	4
	日本文化発達論	4
	日本語教育論	4
言語文化論	比較語彙論	4
	表現構造論	4
	言語構造論	4
	日米比較言語文化論	4
	日英比較言語文化論	4
	日独比較言語文化論	4
	日仏比較言語文化論	4
	対照言語論	4
	文学交流論	4
	比較文学論	4
比較芸術論	比較美術論	4
	比較舞踊論	4
	比較音楽論	4
	東洋芸術論	4
	比較造形論	4
	西洋造形論	4
	比較民族音楽論	4
	生活芸術論	4
比較社会構造論	東洋社会論	4
	西洋社会論	4
	比較社会論	4
	地域生態論	4
	比較地域論	4
	社会構造発達史	4
	日本社会論	4
科学文化論	科学史	2
	教理情報論	2
	構造数理論	2
	言語数理論	2
	構造認識論	2
	情報処理論	2
	確率情報論	2
	生体情報基礎論	2

人間発達学専攻

講座名	授業科目	単位数
発達基礎論	人間学	4
	発達基礎論	4
	比較発達論	4
	発達思想	4
	比較教育思想史	4
	発達障害論	4
	身体発達論	4
発達課程論	人間関係論	4
	発達方法論	4
	初期発達論	4
	保育論	4
	発達臨床論	4
	性差論	4
発達環境論	学校論	4
	発達環境論	4
	教育制度論	4
	学習内容論	4
	成人学習論	4
	家族関係論	4
	集団基礎論	4

人間環境学専攻

講座名	授業科目	単位数
人間生態論	人間生態論	2
	生理環境論	2
	生命構造論	2
	共生現象論	2
	地域環境論	2
	環境指標論	2
	大気汚染論	2
生活環境論	食生活資源論	2
	衣生活素材論	2
	食品加工保存論	2
	生体物質論	2
	物質代謝論	2
	環境浄化論	2
	栄養制御論	2
	食生活素材論	2
	衣生活造型論	2
	衣生活環境論	2
環境基礎論	環境分析論	2
	環境変動論	2
	環境制御論	2
	境界構造論	2
	生態環境論	2
	数理自然論	2
	拡散現象論	2
	統計現象論	2
	生物圏生成論	2
	科学モデル基礎論	2



別表第６（第12条関係）

<table>
<tr><th>研究科</th><th>専攻名</th><th colspan="2">免許状の種類</th></tr>
<tr><td rowspan="11">人文科学研究科</td><td>哲学専攻</td><td rowspan="4">中学校教諭専修免許状
高等学校教諭専修免許状</td><td rowspan="3">社会</td></tr>
<tr><td>史学専攻</td></tr>
<tr><td>地理学専攻</td></tr>
<tr><td>日本文学専攻</td><td>国語</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中国文学専攻</td><td>中学校教諭専修免許状</td><td>中国語</td></tr>
<tr><td>高等学校教諭専修免許状</td><td>国語
中国語</td></tr>
<tr><td>英文学専攻</td><td>中学校教諭専修免許状
高等学校教諭専修免許状</td><td>英語</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教育学専攻</td><td colspan="2">小学校教諭専修免許状
幼稚園教諭専修免許状</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中学校教諭専修免許状
高等学校教諭専修免許状</td><td>社会</td></tr>
<tr><td>舞踊教育学専攻
（舞踊教育学）</td><td>保健体育</td></tr>
<tr><td>舞踊教育学専攻
（音楽教育学）</td><td>音楽</td></tr>
<tr><td rowspan="4">理学研究科</td><td>数学専攻</td><td rowspan="4">中学校教諭専修免許状
高等学校教諭専修免許状</td><td>数学</td></tr>
<tr><td>物理学専攻</td><td rowspan="3">理科</td></tr>
<tr><td>化学専攻</td></tr>
<tr><td>生物学専攻</td></tr>
<tr><td rowspan="4">家政学研究科</td><td>児童学専攻</td><td colspan="2">小学校教諭専修免許状
幼稚園教諭専修免許状</td></tr>
<tr><td>食物学専攻</td><td rowspan="3">中学校教諭専修免許状
高等学校教諭専修免許状</td><td rowspan="3">家庭</td></tr>
<tr><td>被服学専攻</td></tr>
<tr><td>家庭経営学専攻</td></tr>
</table>

附　則

1　この規則は、平成３年４月１日から施行する。

2　人文科学研究科の総定員は、改正後の第６条の規定にかかわらず、平成４年３月31日までの間は、次の表のとおりとする。

<table>
<tr><th>研究科</th><th>専攻</th><th>総定員</th></tr>
<tr><td rowspan="10">人文科学研究科</td><td>哲学専攻</td><td>16人</td></tr>
<tr><td>史学専攻</td><td>15人</td></tr>
<tr><td>地理学専攻</td><td>12人</td></tr>
<tr><td>日本文学専攻</td><td>14人</td></tr>
<tr><td>中国文学専攻</td><td>7人</td></tr>
<tr><td>英文学専攻</td><td>15人</td></tr>
<tr><td>教育学専攻</td><td>23人</td></tr>
<tr><td>舞踊教育学専攻</td><td>20人</td></tr>
<tr><td>日本言語文化専攻</td><td>12人</td></tr>
<tr><td>計</td><td>134人</td></tr>
</table>

3　お茶の水女子大学学位規則（昭和38年４月24日制定）の一部を次のように改正する。

　第１条中「及び第41条第２項」を削る。

4　お茶の水女子大学大学院研究科委員会規程（昭和39年４月22日制定）の一部を次のように改正する。

　第１条中「第33条第２項」を「第７条第２項」に改める。

5　お茶の水女子大学大学院人間文化研究科会議規程（昭和51年６月１日制定）の一部を次のように改正する。

　第１条中「第48条第２項」を「第７条第２項」に改める。

6　お茶の水女子大学大学院研究科連絡委員会規程（昭和39年４月22日制定）は、廃止する。

◆各種委員会委員◆

1．（　）は事務担当課
2．＊印は委員長又は議長
3．任期無記入は官職指定

評議会（庶務課）

官　職	氏　　名	任　　期
学　　長	＊河　野　重　男	2．2.16～4．2.15
文教育学部長	大　口　勇次郎	2.10．1～4．9.30
理学部長	細　矢　治　夫	2．4．1～4．3.31
家政学部長	荒　川　信　彦	3．4．2～5．4．1
大学院人間文化研究科長	森　　隆　夫	3．4．1～6．3.31
附属図書館長	浅　井　　清	3．4．2～5．4．1
附属学校部長	尾　田　幸　雄	2．4．1～5．3.31
文教育学部教授	宮　島　　喬	3．4．1～3．9.30
文教育学部教授	小　川　　剛	1.10．1～3．9.30
文教育学部教授	徳　丸　吉　彦	2.10．1～3．9.30
理学部教授	澤　島　侑　子	1.10．1～3．9.30
理学部教授	小　川　洋　輔	1.10．1～3．9.30
理学部教授	冨　田　　功	2．4．1～3．9.30
家政学部教授	水　野　悌　一	1.10．1～3．9.30
家政学部教授	中　島　利　誠	1.10．1～3．9.30
家政学部教授	湯　沢　雍　彦	1.10．1～3．9.30

（常時評議会に出席できる者）

官　職	氏　　名	任　　期
事務局長	守　屋　　尚	
学生部長	小　林　彰　夫	2．1．1～3.12.31
一般教育委員会委員長	藤　原　正　彦	3．4．1～4．3.31
教務委員会委員長	窪　添　慶　文	3．4．1～4．3.31
女性文化研究センター長	清　水　　碩	3．4．1～5．3.31
生活環境研究センター長	五十嵐　　脩	3．4．1～5．3.31

組織運営検討委員会（庶務課）

官　職	氏　　名	任　　期
学　　長	＊河　野　重　男	
文教育学部長	大　口　勇次郎	
理学部長	細　矢　治　夫	
家政学部長	荒　川　信　彦	
大学院人間文化研究科長	森　　隆　夫	
附属図書館長	浅　井　　清	
附属学校部長	尾　田　幸　雄	
学生部長	小　林　彰　夫	
事務局長	守　屋　　尚	

将来構想検討委員会（庶務課）

官　職	氏　　名	任　　期
文教育学部教授	田　中　真　砂　子	2.10．1～4．9.30
文教育学部助教授	江　原　由　美　子	
理学部教授	冨　永　靖　徳	
理学部教授	福　田　　豊	
家政学部教授	島　田　淳　子	
家政学部助教授	無　藤　　隆	
大学院人間文化研究科教授	徳　丸　吉　彦	
女性文化研究センター講師	舘　　かおる	
生活環境研究センター教授	倉　田　忠　男	

発明委員会（庶務課）

官　職	氏　　名	任　　期
文教育学部長	大　口　勇次郎	
理学部長	＊細　矢　治　夫	
家政学部長	荒　川　信　彦	
文教育学部助教授	内　藤　俊　史	2.10．1～4．9.30
理学部教授	伊　藤　厚　子	

理学部教授	内嶋　善兵衛	2.10.1～4.9.30
家政学部教授	小川　昭二郎	
生活環境研究センター教授	倉田　忠男	

組替えＤＮＡ実験安全委員会（庶務課）

官	職	氏名	任期
研究者	理学部教授	*清水　碩	1.12.16 ～ 3.12.15
研究者	生活環境研究センター教授	大橋　昌子	
自然科学	理学部教授	瀬野　信子	
自然科学	家政学部講師	村田　容常	
人文科学	文教育学部教授	尾田　幸雄	
社会科学	家政学部講師	山本　政人	
官職指定	保健管理センター所長	奥野　剛	
官職指定	理学部事務長	薄葉　章	
官職指定	家政学部事務長	高野　佳征	
安全主任者	理学部教授	能村　堆子	1.12.16 ～ 3.12.15

事務改善研究委員会（庶務課）

官職	氏名	任期
事務局長	*守屋　尚	
庶務課長	高木　義紀	
会計課長	小田野　弘和	
施設課長	南　芳美	
学務課長	福田　みゆき	
学生課長	阿部　清	
入学主幹	佐藤　茂夫	
庶務課課長補佐	金井　晃	
会計課課長補佐	海老原　葵	
学務課課長補佐	三井田　勝	
文教育学部事務長	細井　隆一	
理学部事務長	薄葉　章	
家政学部事務長	高野　佳征	
附属図書館事務長	菊池　昭夫	

レクリエーション運営委員会（庶務課）

官職	氏名	任期
事務局長	*守屋　尚	
庶務課長	高木　義紀	
会計課長	小田野　弘和	
施設課長	南　芳美	
学務課長	福田　みゆき	
学生課長	阿部　清	
入学主幹	佐藤　茂夫	
文教育学部事務長	細井　隆一	
理学部事務長	薄葉　章	
家政学部事務長	高野　佳征	
附属図書館事務長	菊池　昭夫	
庶務課課長補佐	金井　晃	
会計課課長補佐	海老原　葵	
学務課課長補佐	三井田　勝	
附属学校部事務室長	古賀　智	

予算委員会（会計課）

官職	氏名	任期
文教育学部長	大口　勇次郎	
理学部長	細矢　治夫	
家政学部長	荒川　信彦	
大学院人間文化研究科長	森　隆夫	
文教育学部教授	内藤　博夫	3.4.1～5.3.31
文教育学部教授	加賀　秀夫	2.10.1～4.9.30
理学部教授	能村　堆子	3.4.1～5.3.31
理学部教授	福田　豊	2.4.1～4.3.31

家政学部教授	中島利誠	2.4.1～4.3.31
家政学部教授	水野悌一	3.4.1～5.3.31
大学院人間文化研究科教授	井内昇	3.4.1～5.3.31
附属図書館長	*浅井清	
女性文化研究センター長	清水碩	
生活環境研究センター長	五十嵐脩	
事務局長	守屋尚	
学生部長	小林彰夫	
会計課長	小田野弘和	

防災委員会（会計課）

官職	氏名	任期
学長	*河野重男	
文教育学部長	大口勇次郎	
理学部長	細矢治夫	
家政学部長	荒川信彦	
大学院人間文化研究科長	森隆夫	
附属図書館長	浅井清	
附属学校部長	尾田幸雄	
学生部長	小林彰夫	
保健管理センター所長	奥野剛	
事務局長	守屋尚	
庶務課長	高木義紀	
会計課長	小田野弘和	
施設課長	南芳美	
学務課長	福田みゆき	
学生課長	阿部清	

購入物品機種選定委員会（会計課）

官職	氏名	任期
文教育学部教授	内藤博夫	2.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	内藤俊史	2.4.1～4.3.31
理学部教授	*伊藤厚子	2.4.1～4.3.31
理学部教授	冨田功	2.4.1～4.3.31
生活環境研究センター教授	倉田忠男	2.4.1～4.3.31
家政学部教授	小川昭二郎	2.4.1～4.3.31

施設計画委員会（施設課）

官職	氏名	任期
学長	*河野重男	
文教育学部長	大口勇次郎	
理学部長	細矢治夫	
家政学部長	荒川信彦	
大学院人間文化研究科長	森隆夫	
文教育学部教授	式正英	1.10.1～3.9.30
文教育学部教授	石川宏	1.10.1～3.9.30
理学部教授	柴田文明	3.4.1～5.3.31
理学部教授	佐藤浩史	2.4.1～4.3.31
家政学部助教授	飯長喜一郎	2.4.1～4.3.31
家政学部教授	板倉壽郎	2.4.1～4.3.31
大学院人間文化研究科教授	井内昇	3.4.1～5.3.31
附属図書館長	浅井清	
附属学校部長	尾田幸雄	
女性文化研究センター長	清水碩	
生活環境研究センター長	五十嵐脩	
事務局長	守屋尚	
学生部長	小林彰夫	
一般教育委員会委員長	藤原正彦	

館山施設計画委員会（施設課）

官　職	氏　　名	任　　期
理学部長	*細矢治夫	
文教育学部教授	森下はるみ	2.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	杉山　進	1.10.1～3.9.30
理学部教授	瀬野信子	2.10.1～4.3.31
家政学部教授	本間清一	2.10.1～4.9.30
理学部附属臨海実験所助教授	根本心一	
附属高等学校教頭	早崎捷治	
附属中学校教頭	大岩順子	
附属小学校教頭	古市憲一	
附属幼稚園教頭	村石　京	
学生部長	小林彰夫	
事務局長	守屋　尚	
会計課長	小田野弘和	
施設課長	南　芳美	

廃水管理委員会（施設課）

官　職	氏　　名	任　　期
文教育学部助教授	田宮兵衛	1.10.1～3.9.30
理学部助教授	林　正男	1.10.1～3.9.30
理学部教授	冨永靖徳	1.10.1～3.9.30
理学部助教授	藤枝修子	1.10.1～3.9.30
家政学部教授	小川昭二郎	1.10.1～3.9.30
家政学部助教授	畑江敬子	1.10.1～3.9.30
生活環境研究センター教授	*五十嵐　脩	1.10.1～3.9.30
附属高等学校教諭	石井朋子	1.10.1～3.9.30
附属中学校教諭	佐々木和枝	1.10.1～3.9.30
会計課長	小田野弘和	
施設課長	南　芳美	

教務委員会（学務課）

官　職	氏　　名	任　　期
文教育学部教授	*窪添慶文	2.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	寺崎弘昭	3.4.1～5.3.31
理学部教授	冨永靖徳	3.4.1～5.3.31
理学部助教授	桂　利行	3.4.1～4.3.31
家政学部教授	袖井孝子	2.7.5～4.3.31
家政学部教授	島田淳子	3.4.1～5.3.31
一般教育委員長	藤原正彦	
学生部長	小林彰夫	

一般教育委員会（学務課）

官　職	氏　　名	任　　期
文教育学部助教授	小風秀雅	2.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	今西典子	3.4.1～5.3.31
理学部教授	*藤原正彦	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	今野美智子	3.4.1～5.3.31
家政学部助教授	牧野カツコ	2.4.1～4.3.31
家政学部助教授	畑江敬子	3.4.1～5.3.31
学生部長	小林彰夫	

公開講座委員会（学務課）

官　職	氏　　名	任　　期
文教育学部教授	吉田夏彦	2.1.20～4.1.19
文教育学部教授	*徳丸吉彦	2.1.20～4.1.19
文教育学部教授	田中真砂子	2.1.20～4.1.19
理学部助教授	前田ミチエ	2.1.20～4.1.19
理学部助教授	菅本晶夫	2.1.20～4.1.19
理学部教授	内嶋善兵衛	2.1.20～4.1.19
家政学部教授	小池三枝	2.1.20～4.1.19
家政学部助教授	篠塚英子	2.7.5～4.1.19

生活環境研究所センター助教授	冨永典子	2.1.20～4.1.19
学生部長	小林彰夫	

学生委員会・学寮委員会・学生会館運営委員会（学生課）

官職	氏名	任期
文教育学部助教授	耳塚寛明	3.4.1～5.3.31
文教育学部助教授	*秋山光文	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	桂利行	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	益田祐一	3.4.1～5.3.31
家政学部講師	柴坂寿子	2.4.1～4.3.31
家政学部講師	仲西正	3.4.1～5.3.31
学生部長	小林彰夫	

外国人留学生委員会（学務課）

官職	氏名	任期
人文科学研究科教授	*水谷信子	
文教育学部助教授	平田悦朗	
文教育学部助教授	宮尾正樹	3.4.1～5.3.31
理学部助教授	林正男	3.4.1～5.3.31
家政学部助教授	徳井淑子	3.4.1～5.3.31
家政学部講師	柴坂寿子	2.4.1～4.3.31
大学院人間文化研究科助教授	山本秀行	3.4.1～5.3.31
学生部長	小林彰夫	

共用体育施設等管理運営委員会（学生課）

官職	氏名	任期
学生部長	小林彰夫	
附属学校部長	尾田幸雄	
文教育学部教授	佐藤良子	2.6.16～4.6.15
会計課長	小田野弘和	
学生課長	阿部清	

食堂運営委員会（学生課）

官職	氏名	任期
学生部長	小林彰夫	
家政学部講師	田辺新一	2.4.1～4.3.31
家政学部教授	島田淳子	2.4.1～4.3.31
家政学部助教授	大塚恵	2.7.21～4.3.31
附属高等学校教諭	小竹千香子	2.4.1～4.3.31
事務局長	守屋尚	
会計課長	小田野弘和	
学生課長	阿部清	
会計課課長補佐	海老原葵	3.4.1～4.3.31
学生自治会委員長	長田由美	
小石川寮運営委員長	磯崎加奈子	
大山寮寮長	谷本清美	

保健管理センター運営委員会（学生課）

官職	氏名	任期
保健管理センター所長	*奥野剛	
文教育学部教授	野島秀勝	2.10.1～4.9.30
文教育学部教授	佐藤良子	2.10.1～4.9.30
理学部助教授	桂利行	1.9.16～3.9.15
理学部助教授	渡辺洋子	1.9.16～3.9.15
家政学部教授	島田淳子	2.9.16～4.9.15
家政学部教授	水野悌一	2.9.16～4.9.15
附属高等学校教諭	三浦良子	2.4.1～4.3.31
附属小学校教諭	横山善美	2.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	杉山進	
理学部教授	清水碩	
家政学部教授	富田守	
学生部長	小林彰夫	
事務局長	守屋尚	

入学試験委員会（入学主幹室）

官職	氏名	任期
学長	*河野重男	
文教育学部長	大口勇次郎	
理学部長	細矢治夫	
家政学部長	荒川信彦	
文教育学部助教授	高島元洋	2.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	鷹野光行	3.4.1～5.3.31
理学部助教授	永野肇	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	真島秀行	3.4.1～5.3.31
家政学部助教授	飯長喜一郎	2.4.1～4.3.31
家政学部助教授	松浦秀治	3.4.1～5.3.31
学生部長	小林彰夫	
事務局長	守屋尚	
保健管理センター所長	奥野剛	
情報処理センター長	伊藤厚子	

入学者選抜方法研究委員会（入学主幹室）

官職	氏名	任期
文教育学部助教授	江原由美子	2.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	耳塚寛明	3.4.1～5.3.31
理学部助教授	菅本晶夫	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	松本勲武	2.4.1～4.3.31
家政学部講師	杉田孝夫	2.4.1～4.3.31
家政学部講師	田辺新一	3.4.1～5.3.31
学生部長	*小林彰夫	
教務委員長	窪添慶文	
一般教育委員長	藤原正彦	

学芸員課程委員会（文教育学部事務部）

官職	氏名	任期
文教育学部教授	田中真砂子	
文教育学部教授	小川剛	
文教育学部助教授	*鷹野光行	
文教育学部助教授	秋山光文	2.10.1～4.9.30
文教育学部助教授	安田次郎	
文教育学部助教授	栗原尚子	
文教育学部助教授	平野由起子	
理学部助教授	渡辺洋子	
家政学部助教授	徳井淑子	

理学部附属臨海実験所運営委員会（理学部事務部）

官職	氏名	任期
理学部長	*細矢治夫	
理学部附属臨海実験所長	根本心一	
理学部教授	冨永靖徳	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	松本勲武	2.4.1～4.3.31
理学部教授	能村堆子	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	馬場昭次	2.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	田宮兵衛	3.4.1～4.3.31
文教育学部助教授	栗原尚子	3.4.1～5.3.31
家政学部教授	本間清一	2.4.1～4.3.31
生活環境研究センター教授	大橋昌子	2.4.1～4.3.31
会計課長	小田野弘和	
施設課長	南芳美	

理学部ラジオアイソトープ実験室運営委員会（理学部事務部）

官職	氏名	任期
理学部長	*細矢治夫	
RI実験室長	冨田功	

放射線取扱主任者	所　哲司	
文教育学部講師	杉谷　隆	3.4.4～4.3.31
理学部教授	田中　翠	2.10.1～4.9.30
理学部教授	清水　碩	2.10.1～4.9.30
理学部助教授	松本勲武	2.10.1～4.9.30
家政学部助教授	大塚　恵	1.10.1～3.9.30
生活環境研究センター助教授	冨永典子	2.10.1～4.9.30

理学部極低温実験室運営委員会（理学部事務部）

官職	氏名	任期
理学部長	*細矢治夫	
極低温実験室長	伊藤厚子	
理学部教授	田中　翠	2.4.1～4.3.31
理学部教授	福田　豊	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	芦原　坦	2.4.1～4.3.31
生活環境研究センター教授	倉田忠男	2.4.1～4.3.31
保安監督者	所　哲司	

情報処理センター運営委員会（理学部事務部）

官職	氏名	任期
センター長	*伊藤厚子	
センター員 理学部・助教授	佐藤浩史	2.10.1～4.9.30
文教育学部教授	土屋賢二	3.4.1～4.9.30
文教育学部助教授	内藤俊史	2.10.1～4.9.30
理学部助教授	桂　利行	2.10.1～4.9.30
理学部助教授	藤枝修子	2.10.1～4.9.30
家政学部教授	小川昭二郎	2.10.1～4.9.30
家政学部助教授	犬塚伝也	2.10.1～4.9.30
大学院人間文化研究科教授	冨永靖徳	2.10.1～4.9.30
女性文化研究センター教授	原　ひろ子	2.10.1～4.9.30

生活環境研究センター教授	大橋昌子	2.10.1～4.9.30
附属図書館長	荒川信彦	
学生部長	小林彰夫	
一般教育委員会委員長	藤原正彦	

生活環境研究センター運営委員会
（家政学部事務部）

官職	氏名	任期
生活環境研究センター長	*五十嵐　脩	
文教育学部長	大口勇次郎	
理学部長	細矢治夫	
家政学部長	荒川信彦	
生活環境研究センター教授	大橋昌子	
生活環境研究センター教授	倉田忠男	
生活環境研究センター助教授	冨永典子	
文教育学部教授	井内　昇	3.4.1～5.3.31
理学部教授	新関滋也	2.5.1～4.3.31
家政学部教授	島田淳子	2.4.1～4.3.31
家政学部教授	本間清一	2.4.1～4.3.31
事務局長	守屋　尚	

附属図書館運営委員会（附属図書館事務部）

官職	氏名	任期
附属図書館長	浅井　清	3.4.2～5.4.1
文教育学部教授	白藤禮幸	2.10.1～4.9.30
文教育学部助教授	今西典子	2.4.1～4.3.31
理学部助教授	今野美智子	2.4.1～4.3.31
理学部講師	亀井　理	2.4.1～4.3.31
家政学部教授	小池三枝	2.4.1～4.3.31
家政学部講師	杉田孝夫	3.4.1～5.3.31
生活環境研究センター教授	大橋昌子	2.4.1～4.3.31

女性文化研究センター教授	原　ひろ子	2.4.1～4.3.31
一般教育委員会委員長	藤原正彦	

女性文化研究センター運営委員会
(附属図書館事務部)

官職	氏名	任期
女性文化研究センター長	清水　碩	3.4.1～5.3.31
文教育学部長	大口勇次郎	
理学部長	細矢治夫	
家政学部長	荒川信彦	
大学院人間文化研究科長	森　隆夫	
附属図書館長	浅井　清	
女性文化研究センター教授	原　ひろ子	
女性文化研究センター講師	舘　かおる	
文教育学部教授	田中真砂子	2.4.23～4.4.22
理学部教授	前田侯子	2.4.23～4.4.22
家政学部教授	小池三枝	2.4.23～4.4.22
事務局長	守屋　尚	

附属学校委員会(附属学校部事務室)

官職	氏名	任期
附属学校部長	*尾田幸雄	
文教育学部教授	小川　剛	3.4.1～5.3.31
理学部教授	田中　翠	2.4.1～4.3.31
家政学部教授	島田淳子	2.4.1～4.3.31
事務局長	守屋　尚	
附属小学校長	遠山　益	
附属中学校長	上野浩道	
附属高等学校長	湯沢雍彦	
附属幼稚園長	三木紀人	
附属小学校教頭	古市憲一	
附属中学校教頭	大岩順子	
附属高等学校教頭	早崎捷治	
附属幼稚園教頭	村石　京	

附属学校教育研究委員会(附属学校部事務室)

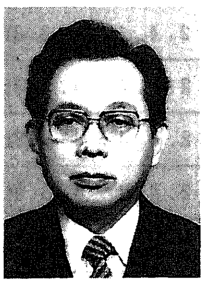
官職	氏名	任期
附属学校部長	*尾田幸雄	
文教育学部教授	春日　喬	2.4.1～4.3.31
理学部教授	伊藤厚子	2.4.1～4.3.31
家政学部教授	牧野カツ子	2.4.1～4.3.31
教育学科助教授	宮原　修	3.4.1～5.3.31
児童学科教授	黒田淑子	2.4.1～4.3.31
附属小学校長	遠山　益	
附属中学校長	上野浩道	
附属高等学校長	湯沢雍彦	
附属幼稚園長	三木紀人	
附属小学校教頭	古市憲一	
附属中学校教頭	大岩順子	
附属高等学校教頭	早崎捷治	
附属幼稚園教頭	村石　京	
附属小学校教諭	若林富男	2.4.1～4.3.31
附属小学校教諭	横山善実	2.4.1～4.3.31
附属中学校教諭	花田修一	2.4.1～4.3.31
附属中学校教諭	秋山晶子	2.4.1～4.3.31
附属高等学校教諭	石井朋子	2.4.1～4.3.31
附属高等学校教諭	谷田部玲生	2.4.1～4.3.31
附属幼稚園教諭	豊田一秀	2.4.1～4.3.31
附属幼稚園教諭	田中三保子	2.4.1～4.3.31

○学科主任

学部	学科等	職名	氏名
文教育学部	哲学科	教授	土屋賢二
	史学科	〃	山本秀行
	地理学科	〃	井内昇
	国文学科	〃	白藤禮幸
	外国文学科		
	中国文学・中国語学	助教授	藤山和子
	英文学・英語学	教授	宮川幸久
	独文学・独語学	〃	石丸昭二
	仏文学・仏語学	〃	石川宏
	教育学科		
	教育学	〃	田中眞砂子
	心理学	〃	内田伸子
	舞踏教育学科		
	舞踏教育学	〃	加賀秀夫
	音楽教育学	〃	遠藤秀一郎
理学部	数学科	〃	渡辺ヒサ子
	物理学科	〃	田中翠
	化学科	〃	福田豊
	生物学科	〃	石和貞男
	情報科学科	〃	小山敏子
家政学部	児童学科	助教授	飯長喜一郎
	食物学科	教授	島田淳子
	被服学科	〃	小川昭二郎
	家庭経営学科	〃	富田守
人文科学研究科	日本言語文化専攻	〃	水谷信子

新任部局長紹介

人間文化研究科長



（任期　平成3年4月1日～平成6年3月31日）（新任）

氏　　名　森　隆夫
生年月日　昭和6年7月30日
出身地　富山県
専　　攻　教育行政学

〔略　歴〕

昭和31年3月　東京大学教育学部教育行政学科卒業
昭和31年　国立教育研究所員
昭和34～36年　フランクフルト大学留学（DAAD、フムボルト財団）
昭和41年2月　お茶の水女子大学文教育学部専任講師
昭和42年7月　助教授
昭和45年～46年　ドイツ国際教育研究所客員教授
昭和49年4月　教授
昭和52年4月～56年3月　附属小学校長
昭和59年10月～61年9月　文教育学部長

〔趣　味〕

「歩きながら考える」のと「考えながら歩く」のはどこが違うのかと、歩きながら考えたり、考えながら歩いたりしている。

〔モットー〕
なんとなく「誠」,「慎」という字が好きです、「短所にブレーキ、長所にアクセル」で人生の名ドライバーにと思っていますが、長所がないので空ぶかしが多く悩んでいます。

〔就任の言葉〕
人間文化研究科は学際研究に特色があるので、デュアル思考でこれを活性化できればと思っています。英語のdualには二つの意味があって　①twoと②doubtで、つまり、絶えず二つの疑問をもつ、複数の観点、異なる学問で対象に迫ることがデュアル思考です。それはローマ神話にでてくるヤヌスの神のように前の顔で未来を、後の顔で過去をみる「知」の神のようなものです。したがって学際研究とは一人の人間が二つの顔（学問）をもつ「学学研究」であるということができるでしょう。どうぞよろしくお願いします。

家政学部長
（任期　平成３年４月２日～平成５年４月１日）

氏　　名　荒川　信彦
生年月日　昭和６年６月４日
出 身 地　徳島県
専　　攻　栄養化学

〔略　歴〕
昭和31年３月　東京大学農学部農芸化学科卒業
昭和33年１月　東京大学農学部農芸化学科助手
昭和41年６月　お茶の水女子大学家政学部食物学科助教授
昭和43年３月～44年４月　米国アイオア州立大学食品工学科客員教授
昭和49年６月～50年６月　同客員教授
昭和53年４月　同教授
昭和58年４月～62年３月　家政学部長
平成元年４月～３年３月　附属図書館長

〔趣　味〕
囲碁、旅行

〔モットー〕
一期一会

〔就任の言葉〕
近年の急激な生活構造や環境の変化に伴い私共生活者の意識や価値観も大きく変りつつあります。これと関連して家政学部では生活環境、生涯生活、生活文化をコンセプトに懸案であった学部改組に取り組んで居ります。全学の御支援をいただければと期待して居ります。

附属図書館長
（任期　平成３年４月２日～平成５年４月１日）（新任）

氏　　名　浅井　清
生年月日　昭和６年４月14日
出 身 地　大分県
専　　攻　日本近代文学

〔略　歴〕
昭和35年３月　東京大学人文科学研究科博士課程国語国文学専攻中退
　　　４月　金沢大学講師
38年７月　同助教授
39年４月　立教大学助教授
42年４月　ハーバード大学客員研究員
45年４月　お茶の水女子大学助教授
51年12月　同教授
61年10月～63年９月　文教育学部長
63年10月　コーネル大学客員教授

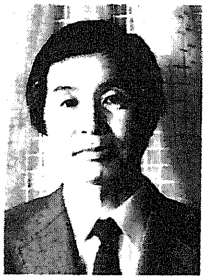
〔趣　味〕
ザル碁

〔モットー〕
特になし。

〔就任の言葉〕
小さな図書館ですが、山椒は小粒でもといわれるように、小さいなりに個性のある、活力に富む図書館であって欲しいと願っています。

女性文化研究センター長

(任期　平成3年4月1日～平成5年3月31日)(新任)



氏　　名　清水　碩
生年月日　昭和7年7月15日
出 身 地　兵庫県
専　　攻　植物生理学

〔略　歴〕

昭和36年3月　東京大学大学院理学研究科修了
昭和36年4月　日本専売公社中央研究所研究員
昭和43年4月　お茶の水女子大学理学部講師
昭和44年4月　お茶の水女子大学理学部助教授
昭和56年4月　お茶の水女子大学教授
昭和63年4月～平成2年3月　理学部長

〔趣　味〕

〔モットー〕

〔就任の言葉〕

これまで違った分野に生きていた私が、この4月から女性文化研究センターに関係することになりました。国の内外から注目されているこのセンターの今後の発展に、戸惑いつつも、少しでもお役に立ちたいと思っております。もの事を楽観的に受けとめることがモットーと言えるでしょうか。趣味はいろいろと変わりましたが、長く続いているのが、モーツアルトを聴くことと、古寺を訪ねることです。

学　　事

○学位授与（学術博士）

（課程修了によるもの）

授与番号	授与年月日	氏　名	本　籍	論　文　題　名
博甲 第19号	平成3年3月22日	高　頴　多	中華人民共和国	Analysis of the π−Electronic Structures of Infinitely Large Conjugated Hydrocarbon Networks（無限大の共役不飽和炭化水素のπ電子構造の分子軌道法による解析）
〃 第20号	〃	小竹　佐知子	新潟県	調味機構の解析 −食品内部への調味料の拡散−
〃 第21号	〃	河　台　烈	大韓民国	カルニチン生合成および脂肪酸の酸化に及ぼすアスコルビン酸の役割に関する研究
〃 第22号	〃	吉田　みどり	兵庫県	大気汚染物質、特にオゾンによるイネの障害及びその防御機構に関する研究
〃 第23号	〃	内山　智香子	東京都	Theoroy of Dielectric and Spin Relaxation（誘電緩和及びスピン緩和の理論）

（論文提出によるもの）

授与番号	授与年月日	氏　　名	本　籍	論　文　題　名
博乙 第20号	平成3年3月15日	内　田　伸　子	東京都	幼児期における物語産出の発達 －物語産出の基礎過程－
〃 第21号	〃	川　村　さと子	秋田県	ガブリエラ・ミストラルの『死のソネット』研究
〃 第22号	〃	リディア・マレロ	フィリピン	TECHNOLOGY AND CHARACTERISTICS OF WEANING FOODS PREPARED FROM GERMINATED CEREALS AND LEGUMES（発芽させた穀物と豆を組み合わせて調製した離乳食の製法と特性）

○卒業式及び学位記授与式について

第39回卒業式及び第27回学位記（修士）授与式、第8回学位記（博士）授与式が3月22日（金）大学講堂で挙行された。

卒業者数及び修了者数

・卒業者数（506名）
- 文教育学部　229名
- 理学部　111名
- 家政学部　166名

・修了者数（122名）
- 修士課程　人文科学研究科　58名
- 理学研究科　35名
- 家政学研究科　29名
- 博士課程　人間文化研究科　5名

○入学式について

平成3年度入学式が4月9日（火）大学講堂で挙行された。

入学者数

・学部　（560名）
- 文教育学部　248名
- 理学部　150名
- 家政学部　159名
- 編入学（家政学部）3名

・大学院　（172名）
- 人文科学研究科　69名
- 理学研究科　36名
- 家政学研究科　39名
- 人間文化研究科　28名

卒　業　者　氏　名

文教育学部（229名）

哲　学　科

阿部祐子	飯塚朋子	上符裕子	越智加奈子	片寄美奈子	加藤和子
門屋典子	金原由紀子	菊池桂	近藤正子	阪本恭子	清水宏子
白井敬子	武内道子	竹崎千絵	富永富美子	西菜穂子	野呂亜希子
長谷川麗子	濱崎明子	林恵理子	原田美代子	平野美歌	松村京美
虫本英子	山川曉	吉田加代子	吉田希代子	山室博子	

史　学　科

穴山朝子	石神純子	稲吉純子	犬塚紀子	大野雅代	岡村規子
北川尚子	小代美樹	小林陽子	坂井寿江	鈴木亜希子	塚越奈津江
辻田恵	富塚佳美	仁賀木順子	細川治子	三好祥子	山田敬子
渡邊祐子	渡會伸恵	寺町志保			

地理学科

荒井　洋子	石原　佐智子	奥　春恵	木村　幸子	小林　玲子	重見　さち子
芝崎　靖代	鈴木　順子	髙山　直子	田島　美香	中島　瑞乃	野中　亜紀
原口　優子	平原　奈津子	本田　麻由美	山崎　嘉子	山下　和歌子	吉田　直美
吉野　秀美	渡邊　英子	竹村　純子			

国文学科

朝倉　美奈	足達　ほなみ	井出　祐子	稲見　圭	小川　恵子	小野寺　聡子
上宇都　ゆりほ	河井　愛	倉谷　智子	栗原　直以	國保　和子	齊藤　みづほ
笹沢　佳代	佐藤　麻紀子	尚樹　あゆみ	鈴木　麻由美	田頭　淳子	田中　貴子
千葉　一子	千谷　瑞枝	土田　祐子	長坂　水晶	野田　幸代子	原藤　尚子
深井　美和	深田　真紀	前田　優代	松田　安紀子	松田　典子	

外国文学科（中国文学・中国語学）

縣　牧子	有村　直美	岩脇　朋子	太田　真希恵	太田　美和	加藤　文代
河村　昌子	國行　香織	舘　けさみ	長田　美和子	永松　京子	花摘　稚子
福久　織江					

外語文学科（英文学・英語学）

秋吉　章子	荒田　有紀	安樂　早苗	石岡　美幸	伊藤　敦美	伊藤　志津子
今枝　恵	大賀　奈美	太田　寛子	亀山　律子	気谷　佳代	黒木　潤子
重住　禎子	霜山　純子	杉尾　敦子	髙取　朋子	髙橋　圭子	竹本　浩子
田中　康子	中桐　広恵	中山　亜樹	西尾　順子	西舘　幸恵	野間　彩子
秦　有美子	蜂須　則子	藤原　明子	松尾　早紀子	三宅　智子	村上　恭子
森　映子	森田　由貴子	八城　美奈子	矢野　桂子	山本　恵美子	

外国文学科（仏文学・仏語学）

大久保　ゆき	岡田　充代	菅野　ひとみ	富岡　良恵	中野　幸子	宮澤　佳代子
出沢　智恵子	田所　悦子				

教育学科（教育学）

有賀　よし美	上田　智子	宇喜多　宣穂	榎村　麻紀	小野　恵子	加賀谷　康子
神崎　めぐみ	北原　美紀	清原　直子	小池　美也子	笹山　恵	住吉　由美子
髙田　千恵	田中　恵里子	中西　祐子	橋口　まりこ	堀　尚子	牧野　知美
村井　玲子	山崎　佳子	山田　純恵	横山　裕恵	杜　秀娟	

教育学科（心理学）

阿部　幹子	市川　和子	伊藤　妙子	岩月　聖子	鴨井　智子	北村　幸子
北村　真理	吉川　麻里	藏田　順子	小林　江里香	髙野　純子	谷口　有希
成宮　晶代	西山　由佳子	原田　英美	廣瀬　綾	福井　里江	水谷　有喜
望月　朝恵	森　球美加	住吉　チカ			

舞踊教育学科（舞踊教育学）

井關　佳世子	指宿　ひとみ	岩井　智子	上村　なおか	大岡　直美	大川　敦子
佐藤　美枝子	田井中　智子	橘　恭子	中村　知子	羽生　佳代	坂東　恵子
藤井　資子	堀　明美	渡辺　史代	君島　佳名子		

舞踊教育学科（音楽教育学）

赤木　早春	加藤　道子	北口　明子	橋田　幸代	木埜山　郁子	桐原　明子
坂巻　彩子	田頭　尚子	東近　みどり	堀部　志保	真野　かおり	村上　真理
吉田　さつき					

理学部（111名）

数学科

浅沼　美紀	井出　靖子	伊藤　玲子	荻原　俊子	加瀬　景子	上田　恭子
川崎　万彩子	川原　順子	金　容子	小林　由紀子	佐伯　明美	笹川　裕子
花園　安紀	白川　玲子	高木　千秋	竹内　優美子	武田　美奈	出口　美恵子
豊田　晴美	中尾　由香	夏川　千鶴	西岡　美香子	西澤　智子	濱中　美紀
宮田　輝子	三好　和	森　美佐子	山本　敦子	中村　恵	

物理学科

安居院　あかね	朝倉　葉	岩井　圭子	大野　真里	大山　千由紀	小畑　葉子
河端　香	坂元　理恵子	貞光　美和子	佐藤　千晶	重松　優子	清水　淳子
菅谷　綾子	高木　美穂	高橋　枝里	塚越　泰子	中沢　初美	長森　藤江
初山　千矢子	樋口　由紀子	待鳥　愛	松田　富美代	三村　佳代子	村尾　美緒
山口　あづさ	湯本　麻子	沓澤　智子			

化学科

青谷 由美子	荒井 早苗	新井 智子	石川 美佐子	伊藤 真理子	井上 律子
岩田 敬子	岩田 恵	上野 香	大川 聖子	大谷 潤子	笠井 香代子
河原 世以子	小林 庸代	上嶋 由希子	竹内 由枝	田中 志保	田中 修子
羽関 典子	早川 敦子	平山 美鈴	逸見 麻理子	松山 陽子	宮田 優子
森野 由香	八鍬 朋子	安居 拓恵			

生物学科

青木 としえ	秋山 智恵子	浅井 美都	浅見 佳子	石井 紀子	猪股 祥子
岩瀬 智子	大西 志保	小野 ありさ	小野 三枝子	河原 裕子	櫛渕 佳苗
近藤 幸子	坂和 千嘉	佐藤 文子	鈴木 恵子	鈴木 智香子	清宮 麻希子
高沢 陽子	高橋 裕子	田辺 敦子	長野 真弓	福田 理子	星野 有紀
安井 弓子	渡辺 桂子	河野 まりさ	但馬 美奈子		

家政学部(166名)

児童学科

赤羽 るみ子	東 寛子	甘利 和美	飯島 由紀子	飯星 実穂	石松 律子
伊藤 恵美子	伊藤 のり子	今村 祐子	植村 彩	魚崎 幾代	江田 真理子
大川 幸子	加藤 千鶴	河口 昭子	河藤 文子	佐藤 久美子	繁浪 恵理
篠原 恵子	白幡 佳子	高橋 真紀	高見沢 晶子	竹川 衆子	田中 伸子
田中 美絵	土屋 美和子	中川 尚美	長島 裕子	西川 昌代	野口 博子
野田 陽子	原 順子	樋川 温子	日名子 純子	廣川 眞弓	福永 治美
松田 朋子	峯吉 ひろみ	向井 美穂	村松 明子	両角 機恵子	山根 有紀子
山本 英理子	吉川 和子	吉賀 多恵子	和田 未来	呉 秋菊	凌 厳艶

食物学科

赤松 麻里子	芥川 智子	磯野 洋子	坂垣 里絵子	伊藤 文代	伊東 美紀
大口 未菜	大林 ハル実	小川 広美	小川 由華	小野 太恵子	小林 星子
小林 恵	小堀 郁子	清水 章代	下島 未夏	城木 結花	神保 佳子
関 映	関矢 陽子	千田 英代	髙世 尚子	高野 尚美	髙橋 真紀子
立見 知子	徳田 仁美	中島 有香子	中村 友美	中村 奈織	羽子田 知子
前川 薫	松下 加恵子	松田 裕子	松村 和子	松森 典子	宮坂 吉美
保田 恭子					

被服学科

井坂 恵美子	市古 小百合	伊藤 公恵	犬尾 千都	魚谷 佳世	内田 郁野
内村 理奈	大口 志歩	折原 芳江	亀之園 寧子	河村 恭子	黒沼 桂子
斎藤 千佳	佐藤 治子	佐野 奈保子	沢田 拓子	島田 佳子	清水 由貴
下原 佳代子	杉尾 育美	薄 奈保子	関野 ひとみ	武田 智恵	田中 扶紀子
谷 佳代子	田村 志保	手島 和子	寺西 晴美	長島 美保	奈須 玲珠
西内 桂子	野口 晶子	林 史子	平田 玲子	福田 佳代子	藤田 浩子
藤原 麻紀	山内 佳代	横関 明子	渡辺 理恵子	松田 洋枝	森 由紀子

家庭経営学科

浅野 美紀	阿部 留美子	池田 弥生	伊藤 維久江	伊藤 宏美	岩田 文
上田 博子	宇野 かおり	大久保 導子	岡田 早都美	奥村 哲子	海妻 径子
加藤 洋子	児玉 浩美	坂本 真希子	佐々木 道代	佐々木 泰子	佐藤 裕紀子
嶋田 陽美	高野 深晴	中嶋 聡美	中溝 恵津子	中村 奈都子	西田 泰子
西村 靖子	波多野 陽子	早川 三千代	林 雅子	深井 久美	古谷 亜弥子
前川 光子	前田 桂	真秀 久美子	松崎 いずみ	松島 みさお	山下 洋子
山根 晴子	郭 秋梅	福羅 あけみ			

修了者氏名

大学院修士課程

人文科学研究科(58名)

哲学専攻

喜多 加実代	定松 文	正富 りか	余 松姫	伊集院 令子	長野 美香
佐々木 由里子	岸 久美子				

史学専攻

須佐 素子	福島 聖佳	二谷 智子	泉 慶子	田中 小百合	杉原 三千代

地理学専攻

樋口知子　青木久美子

日本文学専攻

植村友香子　柴佳世乃　髙田三穂　中島有知子　中村美穂子　久世安樹
呉知紋　申銀珠　林美蓉　腮尾尚子　李恵淑　金愛慶

中国文学専攻

西野由希子　山谷悦子　中島千香子

英文学専攻

小口敦子　向後朋美　鈴江朋子　四元直子

教育学専攻

髙江洲洋子　野口麻里　吉川裕美子　宋壬淳　荒井宏子　髙澤美佐子
渡邊みのり　金美惠

舞踊教育学専攻

佐藤典子　髙野祐子　髙橋系子　三上賀代　渡部かなえ　松村朋子
今村伸子　大脇美奈子　光崎美絵子　小長久美　小林規子　髙樋純子
髙比良順子　田嶋泉　松井慶子

理学研究科（35名）

数学専攻

加納雅子　藤井紀己子

物理学専攻

天羽優子　伊藤綾　海老井祥代　川崎晴美　木村久美子　黒田朱美
小久保佐知子　下尾由美　高橋美和子　中道晶香　王研

化学専攻

内堀はるひ　浦上昌子　大野美奈　神林秀　小島京子　小島優子
小林万里子　新谷紀子　六車千鶴　山岸三保奈　大内まどか

生物学専攻

井上真美　石川総子　内山洋子　大矢真弓　神山紀子　長野裕子
藤枝宜子　藤森尚子　森まり子　矢吹奈美　李蓓

家政学研究科（29名）

児童学専攻

奈良ゆきの　早川麻里　福嶋美香　堀江紀子　村上智子　村木洋美
鈴木雅美

食物学専攻

池田彩子　池田ゆりか　梅田留美　小畑真子　坂下裕子　須賀田直子
武田可穂子　田中陽子　外狩なつみ　三田知子　山越葉子　山本文子

被服学専攻

青木敦子　石附京子　梅谷知世　秋美先　裵淑姫　鄭好善
石坂美樹

家庭経営学専攻

谷口彩子　小野瀬裕子　若林チヒロ

大学院博士課程

人間文化研究科（5名）

比較文化学専攻

高頴多

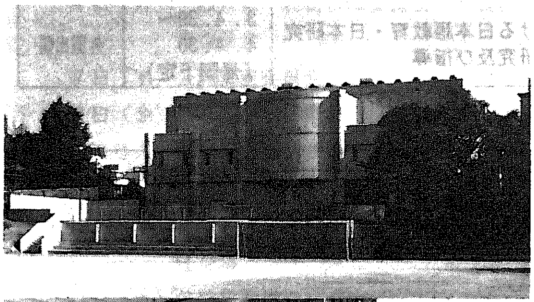
人間環境学専攻

内山智香子　小竹佐知子　吉田みどり　河台烈

諸　　報

○附属中学校体育館竣工式について

附属中学校体育館が完成、３月23日に竣工式が行われた。鉄筋コンクリート造２階建てで延床面積は1,492㎡。１階の武道場は柔道・剣道等の他に卓球や創作ダンス等多目的に活用できるスペース、また２階は講堂兼体育室(バレーボール、バドミントン等）となっている。

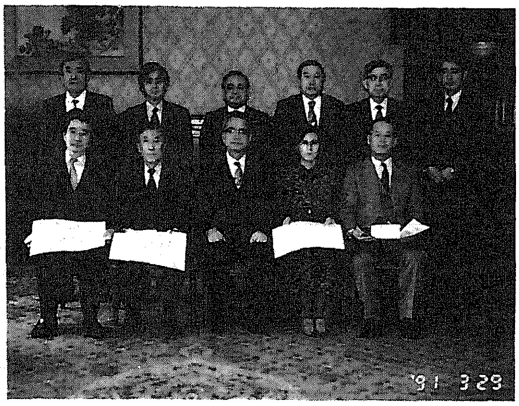


屋外プレイスペースもあるユニークな設計

○永年勤続者表彰について

平成２年度退職時の永年勤続者表彰式が平成３年３月29日大学会議室に於いて行われ、被表彰者に表彰状並びに記念品が授与されました。
被表彰者は次のとおりです。

附属図書館	事務長	岩崎哲昌
文教育学部	事務長	豊田広一
附属小学校	教　頭	古畑三郎
附属高等学校	教　頭	石田光子



（永年勤続表彰式）

特別休暇（夏季休暇）の新設について

平成３年度から、特別休暇（夏季休暇）が新設されましたので、下記の点に注意し実施してください。（庶務課職員係）

記

1. 夏季休暇の新設概要について

夏季における盆等の諸行事、心身の健康の維持及び増進、又は家族生活の充実等を目的として、その年の７月から９月の期間内に、原則として連続する３日の範囲内の期間の特別休暇（夏季休暇）が取得できるものです。

2. 夏季休暇の運用について

「原則として連続する３日」の取り扱いについては、勤務を要しない日（週休土曜日及び日曜日をいう。）及び休日を除く３暦日である。従って、例えば、勤務を要しない日を挟んだ前後に３日間の夏季休暇を取得しようとする場合には、連続する３日として取得できるものです。

また、１日に４時間の勤務時間が割り振られている場合（土曜日等）はもちろん、１日に８時間を超える勤務時間が割り振られている場合についても、その勤務時間のすべてを休む場合は、１日の夏季休暇としてとりあつかわれます。

○海外渡航

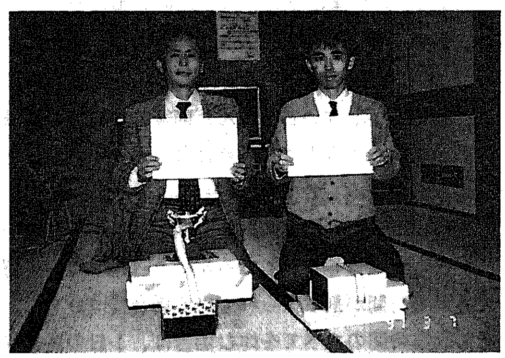
所属・職名	氏名	渡航先国	渡航目的	期間	渡航種別
家政学部・講師	田辺新一	デンマーク王国	快適環境サーマルマネキン研究に関する打合せ	3.3.3～3.3.10	外国出張
理学部・助教授	芦原保	連合王国 ドイツ連邦協和国 ベルギー王国	植物の代謝調節に関する研究打合せのため	3.3.2～3.3.21	海外研修
理学部・助教授	永野肇	フランス共和国	日仏学術交流のため	3.2.28～3.3.25	海外研修
理学部・助手	松浦悦子	アメリカ合衆国	ショウジョウバエ研究会議に出席	3.3.20～3.3.26	外国出張
附属高等学校・教諭	谷田部玲生	大韓民国	日韓公民教育シンポジュウム参加	3.3.27～3.4.3	海外研修
家政学部・助手	作田正明	アメリカ合衆国	植物における芳香族アミノ酸合成系の代謝調節の研究	3.4.10～4.2.9（帰国予定）	外国出張
文教育学部・教授	佐藤保	中華人民共和国	中国における日本語教育・日本研究に関する研究及び指導	3.4.29～4.4.30（帰国予定）	外国出張

○健康診断

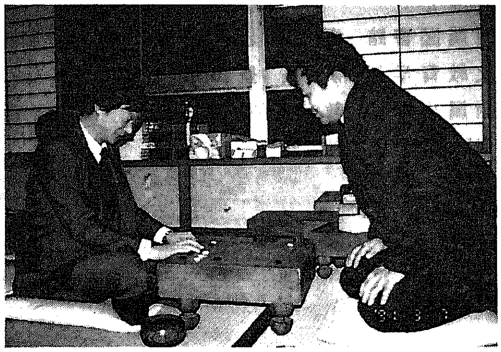
事項	実施期日	対象者	受診者数	実施場所
平成2年度職員特別定期健康診断（第2次）	平成3年3月25日	自動車運転手	3人	保健管理センター

○レクリェーション行事

行事名	実施日時	参加者数	入賞者	実施場所
第1回職員囲碁・将棋大会	平成3年3月5日～3月8日	16人	囲碁の部 優勝 堤精二（文教） 準優勝 田沼行文（会計） 第3位 近本政明（会計） 将棋の部 優勝 花田修一（附中） 準優勝 山田毅（学務） 第3位 西村光範（会計）	本部棟第1，2研修室
平成2年度演芸鑑賞	平成3年3月11日～3月20日	40人		上野鈴本演芸場



（将棋の部の優勝者、準優勝者）



（囲碁の部の対局）

日　　誌

◇諸　会　議

2月18日（月）入学試験委員会、保健管理センター運営委員会
19日（火）将来構想検討委員会
26日（火）部局長会議、附属学校委員会
27日（水）評議会、家政学部学科主任会議、附属学校教育研究委員会
28日（木）文教育学部、理学部学科主任会議
3月1日（金）各学部教授会、研究科委員会
4日（月）一般教育・教務合同委員会、一般教育委員会
7日（木）公開講座委員会
8日（金）教務委員会、事務連絡会議
12日（火）部局長会議、女性文化研究センター運営委員会
13日（水）人間文化研究科会議、各学部学科主任会議
14日（木）各学部教授会
15日（金）教務委員会、学寮委員会、学寮協議会
18日（月）公開講座委員会、将来構想検討委員会
19日（火）部局長会議
20日（水）評議会
4月12日（金）事務連絡会議
15日（月）外国人留学生委員会、附属学校委員会

◇行　事　等

2月16日（土）附属高等学校入学試験合格者発表
21日（木）附属小学校教育実際指導研究会（21日～22日）
25日（月）平成3年度大学入学試験（25日～26日）
3月5日（火）人間文化研究科第2次試験（5日～6日）
12日（火）附属幼稚園卒園式
15日（金）平成3年度大学入学試験合格者発表、学位記授与式、停年退職者全学送別会
16日（土）附属中学校卒業式
20日（水）附属高等学校卒業式
22日（金）卒業式、学位記授与式、附属中学校終業式
23日（土）附属中学校体育館竣工式、附属高等学校終業式、附属小学校卒業式、終業式
29日（金）停年退職時永年勤続者表彰式
4月2日（火）人文科学研究科日本語文化専攻願書受付（2日～5日）
8日（月）附属高・中・小学校入学式、始業式
9日（木）大学入学式、新入生オリエンテーション（9日～13日）
11日（木）人文科学研究科日本語文化専攻入学試験（11日～12日）
13日（土）前期授業開始

○お知らせ

Walt Disney's
Magic Kingdom Club
© The Walt Disney Company

本学では東京ディズニーランドのマジックキングダムクラブに昨年、入会しました。クラブのメンバーになりますと、いろいろな特典が受けられますのであなたもメンバーになりませんか。

東京ディズニーランドでは年間を通じて沢山のイベントを企画しておりますが、情報等が分り次第、随時メンバーの方々にはお知らせします。

☆　メンバーの特典について　☆

① クラブメンバーとその家族だけが、東京ディズニーランドの特別チケットを特別価格で購入できます。

■料金表　　この料金表の金額には消費税が含まれております（ギフトカードを除く）、料金は予告なく変更になることがあります。

区分	チケットの種類	チケットの内容	大人(18才以上)	中人(中学生・高校生 12才～17才)	小人(幼児・小学生 4才～11才)
メンバー用	マジックキー・チケット	●入園とどのアトラクションにも使えるマジックキー・アトラクション券6枚のセット	3,900円	3,500円	2,600円
	マジックキングダムクラブ・パスポート	●入園と当日に限り、すべてのアトラクションに使用できる券（シューティングギャラリーを除く）	4,000円	3,600円	2,700円
一般用	ビック10	●入園とアトラクション券5種類10枚のセット（A券1枚、B券1枚、C券2枚、D券3枚、E券3枚）	4,100円	3,700円	2,700円
	パスポート	●入園と当日に限り、すべてのアトラクションに使用できる券（シューティングギャラリーを除く）	4,400円	4,000円	3,000円

② 東京ディズニーランド・オフィシャルホテルが一年を通じて下記の料金でご利用になれます。

第一ホテル東京ベイ	室料割引10%引き（税、サ、別）　☎0473－55－3333
サンルートプラザ東京	エコノミックツインを除く客室の15%引き（税、サ、別）　☎0473－55－1111
東京ベイホテル東急	室料割引10%引き（税、サ、別）　☎0473－55－2411
東京ベイヒルトン	宿泊パッケージ（税、サ、朝食込み）　☎0473－55－5000 ツイン2人利用　1名　20,000円 ツイン（トリプル）3人利用　1名　17,000円
シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル＆タワーズ	室料割引15%引き（税、サ、別）　☎0473－55－5555

※ 予約は直接各ホテルへメンバーであることを告げ、料金等確認し申込み下さい。

③ クラブメンバーは、アメリカでも次のような特典が受けられます。

◇ ディズニーランド（カリフォルニア州）、ウォルト・ディズニーワールド（フロリダ州）でメンバー用の特別チケット購入や、ディズニーランドホテル（カルフォルニア州）及びヒルトンホテル（全米）で10%の宿泊割引きがご利用になれます。

◇ 米国内大手レンタカー会社、ナショナル・カーレンタルで15%の割引、ロングビーチのクインメリー号とスプルースグースで10%の入場割引及びカリブ海、バハマ諸島、メキシコ等への豪華客船によるクルーズ。デルタ航空等の割引き特典があります。

※ これは本学職員の福利厚生の一環で実施しており、会費等は一切ありません。
なお、メンバーになりたい方は随時受付しておりますので、庶務課職員係までお越しください。